

ISSN : 0037-3796



神経化学

Bulletin of the Japanese Society for Neurochemistry

Vol. 38 (No.2), 1999

第42回 日本神経化学会(広島)大会プログラム号

平成 11 年 8 月

目次

■第42回日本神経化学会組織委員会、プログラム委員	34
■ご挨拶	35
■学会場案内	36
学会場への交通	
国際会議場案内図	
学会場案内図	
■学会参加受付	39
■発表要領	41
■大会日程概要	43
■日本神経化学会からのお知らせ	46
■プログラム	47
会長講演	
合同公開シンポジウム	
公開シンポジウム	
シンポジウム	
ワークショップ	
一般演題（口演）	
一般演題（ポスター）	
ランチョンセミナー、イブニングセミナー	
■催し物	99
■学会掲示板	99
■謝 辞	106
■編集後記	107
■人名索引	109



第42回日本神経化学会 プログラム



- 会 期 平成11年9月15日（水）,16日（木）,17日（金）
- 会 場 広島国際会議場（平和記念公園内）
〒730-0811 広島市中区中島町1の5
TEL:082-242-7777
- 会 長 中村重信（広島大学医学部第三内科）
- 事務局 広島大学医学部第三内科
第42回日本神経化学会・広島大会事務局
〒734-8551 広島市南区霞1の2の3
TEL:082-257-5201
FAX:082-505-0490
E-mail:3naika@mcai.med.hiroshima-u.ac.jp
- 会期中の学会本部
広島国際会議場 小会議室（ラン2）
TEL:082-242-8891（直通）

第42回日本神経化学会組織委員会

太田 茂 (広島大学医学部社会薬学)	筒井 和義 (広島大学総合科学部人間行動研究)
川上 秀史 (広島大学医学部内科学第3)	土肥 敏博 (広島大学歯学部歯科薬理学)
菅野 雅元 (広島大学医学部免疫学・寄生虫学)	仲田 義啓 (広島大学医学部薬効解析学)
菊池 章 (広島大学医学部生化学第1)	三森 康世 (広島大学医学部内科学第3)
栗栖 薫 (広島大学医学部脳神経外科学)	山脇 成人 (広島大学医学部神経精神医学)
笹 征史 (広島大学医学部薬理学)	

第42回日本神経化学会プログラム委員 (敬称略)

新井 平伊 (順天堂大学医学部精神医学)	下濱 俊 (京都大学大学院臨床神経学)
阿部 康二 (岡山大学医学部神経内科)	武田 雅俊 (大阪大学大学院神経機能医学)
池中 一裕 (岡崎国立共同研究機構生理学研究所神経情報部門)	田平 武 (国立精神・神経センター神経研究所)
大久保善明 (東京医科歯科大学医学部神経精神医学)	西川 徹 (国立精神・神経センター神経研究所)
小川 紀夫 (岡山大学医学部附属分子細胞医学研究施設神経情報学部門)	丹羽 真一 (福島県立医科大学神経精神医学)
加藤 進昌 (東京大学大学院精神医学)	貫名 信行 (理化学研究所脳科学総合研究センター)
神庭 重信 (山梨医科大学精神神経医学)	松本 昌泰 (大阪大学大学院病態情報内科学)
金澤 一郎 (東京大学大学院神経内科学)	三國 雅彦 (群馬大学医学部神経精神医学)
兼子 直 (弘前大学医学部神経精神医学)	水野 美邦 (順天堂大学医学部脳神経内科)
栗山 勝 (福井医科大学第2内科)	山脇 成人 (広島大学医学部神経精神医学)
楠 進 (東京大学大学院神経内科学)	米田 博 (大阪医科大学神経精神医学)
高坂 新一 (国立精神・神経センター神経研究所)	柳澤 勝彦 (国立長寿医療研究センター痴呆疾患研究部)
斉藤 利和 (札幌医科大学神経精神医学)	渡辺 義文 (埼玉医科大学精神医学)
佐々木秀直 (北海道大学大学院神経内科学)	和田 圭司 (国立精神・神経センター神経研究所)

この度、1999年9月15日（水）～17日（金）の3日間、広島国際会議場におきまして、第42回日本神経化学会を開催する運びとなりました。本学会はその誕生当時から、脳・神経の化学的側面の研究を厳しい姿勢で討論する場として設定され、わが国のこの領域での研究を世界をリードする形にまで発展させて参りました。この良き先人のご努力を受け継いで、さらに新しい「脳の世紀」につないでいくため、第42回日本神経化学会が少しでも寄与できればと望んでおります。

近年、分子生物学の発展に伴い神経化学分野での研究が爆発的に進歩し、神経機能の化学的な側面からの解明、神経疾患のモデル動物の作成を通じて、神経化学の業績の一部は神経疾患で苦しむ人たちの役に立っております。しかし、このような研究方向も始まったばかりで、今後脳・神経の研究が飛躍的に発展し、社会のために役立つことが期待されております。

一方、学問、教育、医療などが量的・質的に拡大するにつれて、それらを相互に連携させ、社会に還元するといった問題が種々の方面から問いかけられ、従来の枠組みの変更も迫られております。神経化学における研究やその学会活動についても、おそらく例外ではないように思われます。事実、昨年は第41回日本神経化学会と第21回神経科学大会の合同の大会が東京ビッグサイトで開催され、大きな成功を収めました。今回は第29回日本神経精神薬理学会と重ねて行うことにより、別の連携の形を模索致しました。

さらに、社会への門戸を広げる目的で、2つの公開シンポジウムを企画いたしました。一つは「アルツハイマー病をどうして治すかー神経化学からのアプローチ」という第29回日本神経精神薬理学会との合同公開シンポジウムを行います。本シンポジウムには外国から5名とわが国から5名のシンポジストを予定しております。本シンポジウムは文部省より公開促進費を受け、世界アルツハイマー・デーの記念事業として厚生省から後援を受けております。他の公開シンポジウムは「神経情報信号化分子ーチャンネル・トランスポーターの生理と病態」であり、チャンネルやトランスポーターの機能や疾患との関係を検討されるものと期待しています。それ以外に、シンポジウム8題とワークショップ9題および一般口演、ポスター・セッションについて十分な討論時間をとって議論できるよう計画しました。

本学会は薬理、生理、生化学といった基礎の領域、精神科、神経内科、脳神経外科などの臨床各科の研究者が一同に会して、学際的に意見交換をすることを趣旨とするもので、種々の社会的問いかけや機構変革に応えるモデルとなると自負しています。新しい世紀の学問のありかたの雛形を世に問うことを目指して、日本の将来を担う若い脳研究者に前進して頂きたいと考えています。

本学会には各方面からの多大のご支援がありました。ことに、学会開催を待たずに多発性肺嚢胞にて逝かれた藤井研太医師のご助力には深く感謝いたします。

9月半ばの広島は眼や舌に楽しい季節でありますので、十分堪能していただけるものと思っております。

学会場への交通

広島駅から

路線バス（所要時間約20分）

- 広島駅南口バスのりばA-3ホームから広島バス24号線「吉島営業所または吉島病院」行きへ乗車, 「平和公園前」で下車。
- 広島駅南口バスのりばA-1ホームから広島電鉄バス13号線「百メートル道路経由広島西飛行場」行きへ乗車, 「平和公園前」で下車。

市内電車（所要時間約20分）

- 広島駅南口市内電車のりばから「宇品（うじな）①」行きへ乗車, 「袋町（ふくろまち）」で下車, 徒歩5分
- 「己斐（こい）②」, 「江波（えば）⑥」, または「宮島」行きへ乗車, 「原爆ドーム前」で下車, 徒歩5分

タクシー 所要時間約15分, 1500円前後です。

広島空港から

空港リムジンバス（所要時間約65分, 高速道路経由）

- 広島空港1階到着フロアBホーム「広島方面リムジンバス乗場」から「広島バスセンター」行きへ乗車, 終点「広島バスセンター」で下車, 徒歩10分

タクシー 所要時間約50分（高速道路経由）

広島西飛行場から

路線バス（所要時間約20分）

- 広島西飛行場前バスのりばから広島電鉄バス3号線「広島駅」行きへ乗車, 「中電前（ちゅうでんまえ）」で下車, 徒歩5分

タクシー 所要時間約10分, 1500円前後です。

広島港（宇品港）から

路線バス

- 広島バス21号線「広島, 大洲（おおず）, 向洋（むかいなだ）」行きへ乗車, 「中電前」で下車, 徒歩5分

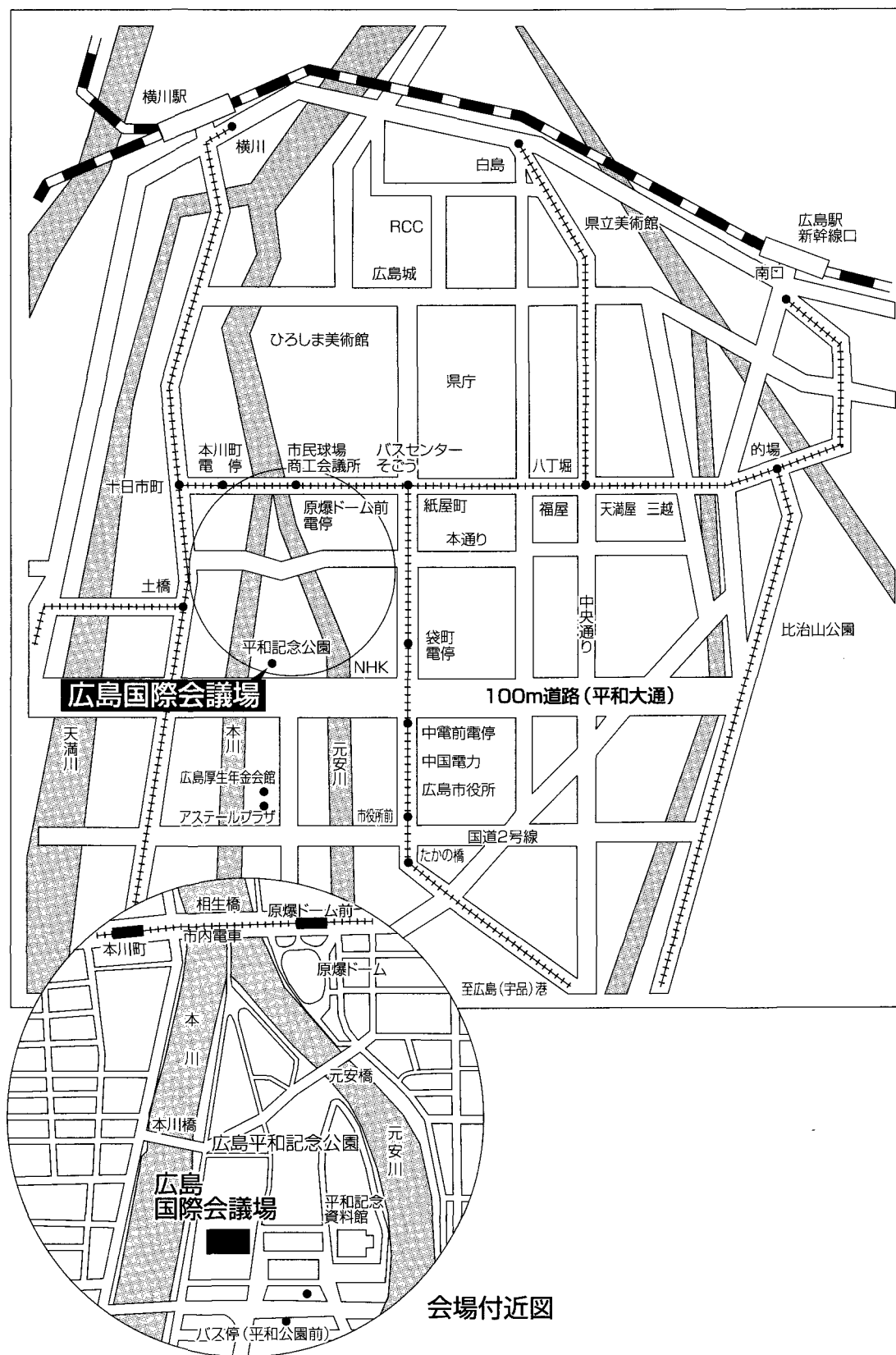
市内電車（所要時間約30分）

- 「広島駅①」または「己斐（こい）③」行きへ乗車, 「袋町」で下車, 徒歩5分

タクシー 所要時間約20分, 2000円前後です。

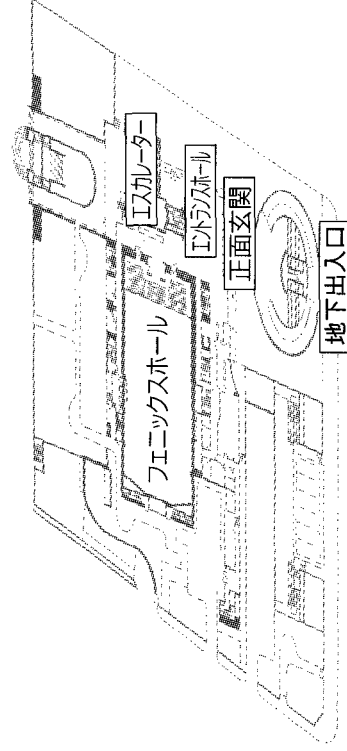
■お車でお越しの方へ

広島国際会議場の駐車場（無料）はご利用台数が限られており, また混雑が予想されるため, なるべくお車でのご来場はご遠慮ください。平和公園の周辺には有料駐車場がありますので, そちらをご利用下さい。

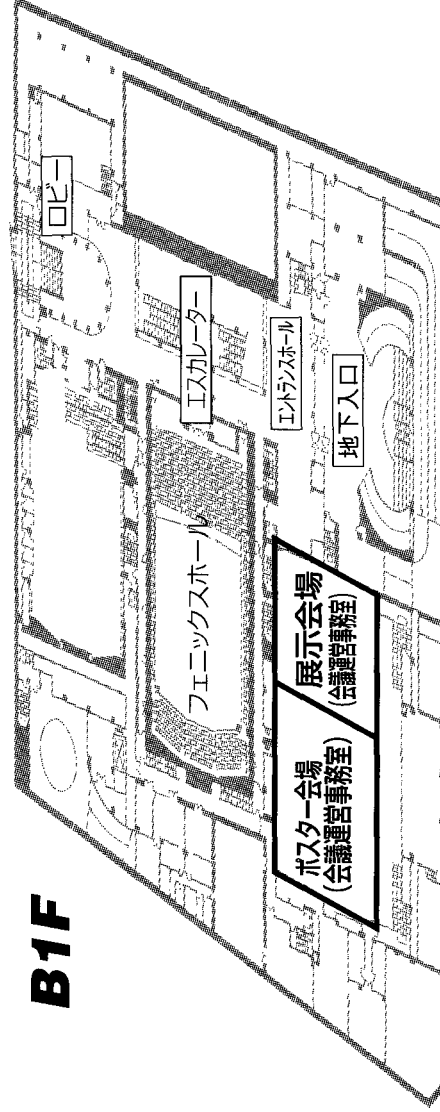


学会場案内図

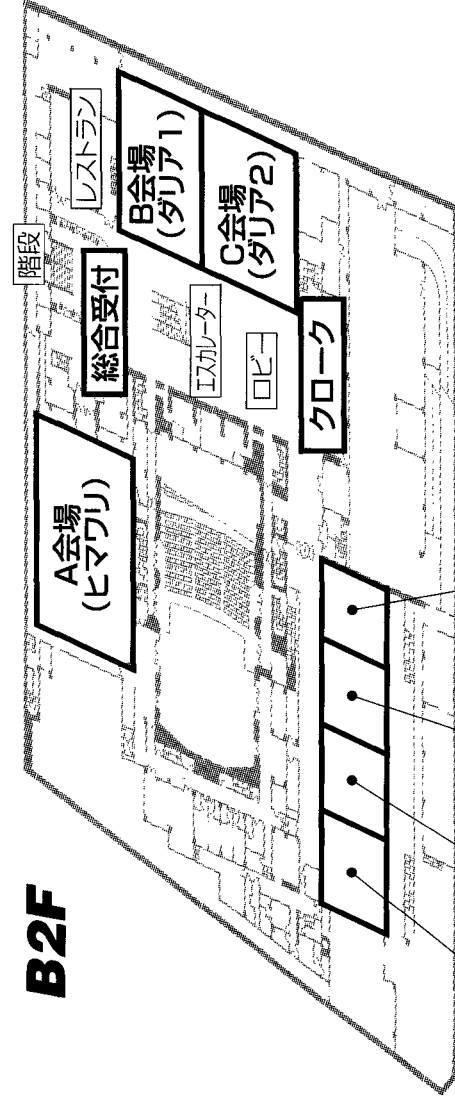
1F



B1F



B2F



学会本部 F会場 E会場 D会場
(ラン2) (ラン1)(コスモス2)(コスモス1)

学会への参加受付

1. 参加者の皆様へ

●参加登録をお済ませの方へ

学会当日は広島大会事務局からお送り致しました参加登録証（名札）を必ずご持参ください。また会期中は名札を胸にお付け下さいますようお願い申し上げます。万一お忘れになられた場合には総合受付までお申し出下さい。公開シンポジウムを除き、名札のない方の入場はお断りいたします。

●当日参加登録される方へ

受付は、地下2階A会場（ヒマワリ）前のロビーにおいて午前8時20分より開始します。お渡しした名札を胸にお付けのうえご入場ください。参加費は以下の通りです。学生の方はその旨お申し出下さい。お渡しする名札には学生であることを明記させていただきます。

当日受付参加費

会 員	10,000円
非 会 員	11,000円
学 生 会 員	4,500円
学生非会員	5,000円

●非会員の方へ

本学会の演題発表者は本学会会員に限らせていただいております。非会員の方は速やかに正会員又は臨時会員としての入会手続きをお取り下さい。詳細は下記学会事務センターにお問い合わせ下さい。「神経化学」誌のプログラム号（本誌）、抄録集は正会員の方にのみ送付されます。ただし参加登録を既にお済ませの非会員の方へも、プログラム号だけは広島大会事務局から直接送らせていただきます。抄録集は学会当日、総合受付でも販売いたします（一部6,000円）ので、ご希望の方はお買い求め下さい。

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9

日本学会事務センター

TEL:03-5814-5810 FAX:03-5814-5825

●第29回神経精神薬理学会に参加された方へ

第29回神経精神薬理学会に参加された方で、引き続き本学会にも参加登録を希望される方には割引制度を設けました（参加費5,000円）。当日受付のみとさせていただきます。総合受付に直接お申し出下さい。

●取得単位について

本学会への参加は、日本神経学会、日本小児神経学会、および日本良導絡自律神経学会の認定医研修単位の対象となります。詳細はそれぞれの学会に直接ご照会下さい。

2. お知らせ

●会場への入場について

会場の1階正面入口からは午前9時にならないと入場できません。それまでは地下1階の地下入口からご入場下さい。会場案内図をご参照下さい。

●立ち入り区域について

本学会はメインホールであるフェニックスホールは使用いたしません。したがって、フェニックスホールおよびそれに付随した区域には立ち入ることができませんのでご了承下さい。

●クローク

地下2階に設けてありますのでご利用下さい。

●呼び出し、伝言

放送での呼び出しは行っておりません。地下2階のA会場前に伝言板を設置していますのでご利用下さい。

●ランチョンセミナー、イブニングセミナー

9月16日と17日の昼休みおよび16日の午後6時からセミナーを開催いたします。お弁当を用意いたしますが、数に限りがありますので先着順とさせていただきます。

●ビアパーティ

従来の懇親会に代えて、16日の午後7時（イブニングセミナー終了後）よりビアパーティ（参加費無料）を行います。奮ってご参加下さい。

●宿泊・交通・観光案内

会場内にJTBの案内デスクを設置しています。お気軽にお立ち寄り下さい。

●学会本部

会期中は地下2階の小会議室（ラン2）に学会本部を設置しています。

発表要領

1. シンポジウム、ワークショップ

●演者の方へ

- 1) スライドの受付は各会場の入口受付で行います。シンポジウム（ワークショップ）開始30分前までにスライドをスライド受付に提出して下さい。
- 2) プロジェクターは35mm（5×5cm）判用のものを原則として一台使用します。
- 3) スライドは所定のスライドホルダーに入れて提出し、試写をした上で係にお渡し下さい。その際にスライド預り証をお渡しいたします。講演終了後に預り証と引き替えにスライドをお受け取り下さい。
- 4) ご発表15分前には必ず次演者席にお着き下さい。
- 5) 講演時間の厳守をお願いいたします。

●司会の方へ

- 1) シンポジウム（ワークショップ）開始15分前までに会場入口の受付にお越し下さい。到着されたことを告げられた後、次座長席にお着き下さい。
- 2) 時間厳守にご留意いただき運営して下さい。

2. 一般演題（口演）

●演者の方へ

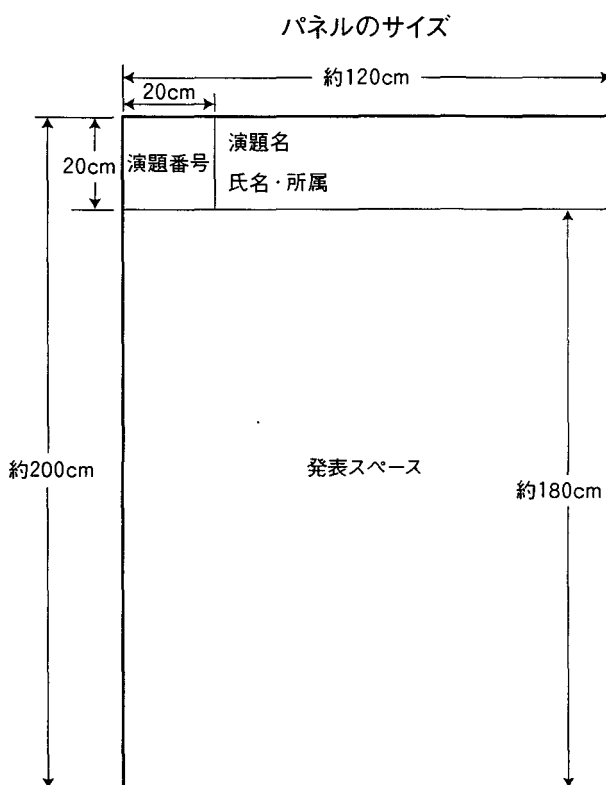
- 1) スライドの受付は各会場の入口受付で行います。発表開始1時間前までにスライドをスライド受付に提出して下さい。
- 2) プロジェクターは35mm（5×5cm）判用のものを原則として一台使用します。スライド枚数は原則として10枚以内です。
- 3) スライドは所定のスライドホルダーに入れて提出し、試写をした上で係にお渡し下さい。その際にスライド預り証をお渡しいたします。講演終了後に預り証と引き替えにスライドをお受け取り下さい。
- 4) ご発表10分前には必ず次演者席にお着き下さい。
- 5) 発表時間は10分、討論時間は4分です。設定時間を厳守して下さい。

●座長の方へ

- 1) セッション開始15分前までに会場入口の受付にお越し下さい。到着されたことを告げられた後、次座長席にお着き下さい。
- 2) 時間厳守にご留意いただき運営して下さい。

3. 一般演題（ポスター）

●ポスターの展示要領



- 1) 発表内容は上記の展示スペースに収まるようにして下さい。
- 2) パネル左上の演題番号のみは大会事務局が作成いたします。演題名, 所属, 氏名は各自で20cm×100cmの大きさのものを用意して下さい。
- 3) ポスターは大きく分かりやすく書いて下さい。
- 4) 日本語が理解しづらい参加者のために, 英語での要約をつけたり, 英語での図の説明をつけるなどのご配慮をお願いいたします。
- 5) パネル自体には直接図や文字を書いたり, パネルに直接糊付けしたりはできません。
- 6) 展示用の押しピンはポスター受付に準備いたします。

●ポスター発表・討論

- 1) ポスターの展示会場は地下1階のポスター会場（会議運営事務室およびロビー）です。
- 2) ポスター発表は16日, 17日のどちらかになります。期日をご確認下さい。
- 3) ポスター討論時間を以下のように設定してあります。発表者はポスター受付にてリボンを受け取り, 必ず自分のポスターの前に待機して下さい。日により時間帯が異なりますのでご注意下さい。
 16日 17:00～18:00
 17日 12:00～13:00
- 4) ポスターは2日も午前9時から10時までの間に所定の場所に貼付して下さい。また, 16日は午後7時までに, 17日は午後4時までに撤去を完了して下さい。撤去されないポスターは事務局で撤収させていただきますが, 郵送などによるご返送はいたしかねますのでご了承下さい。

第1日目 9月15日(水) 日程表

S: シンポジウム WS: ワークショップ

	A会場 (ヒマワリ)	B会場 (ダリア1)	C会場 (ダリア2)	D会場 (コスモス1)	E会場 (コスモス2)	F会場 (ラン1)	ポスター会場 (会議室・事務室)
9:00							
10:00	合同公開シンポジウム						
11:00	S10 「アルツハイマー病をどうして治すか ー神経化学からのアプローチー」 中村重信 鍋島俊隆						
12:00							
13:00	P. H. St. George-Hyslop (Canada) T. Tabira (Japan) M. N. Rossor (U.K.) M. Takeda (Japan) J. D. Gabrieli (USA) K. Yanagisawa (Japan) D. B. Schenk (USA) J. -C. Louis (USA)						
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							

第2日目 9月16日(木) 日程表

S: シンポジウム WS: ワークショップ

	A会場 (ヒマワリ)	B会場 (ダリア1)	C会場 (ダリア2)	D会場 (コスモス1)	E会場 (コスモス2)	F会場 (ラン1)	ポスター会場 (会議運営事務局)
9:00	神経化学会 公開シンポジウム S20	S1 「神経老化の最前線」	S2 「精神分裂病の神経化学的病態に関する新しいアプローチ」	WS1 「シナプスの可塑性のダイナミクス」	WS2 「神経変性とアポトーシス」	WS3 「Peroxisome 病の発症機序」	ポスター (P1) 貼 付
10:00	「神経情報信号化分子ーチャンネル・トランスポーターの生理と病態ー」						掲 示
11:00							
12:00		評議員会	ランチョン セミナー1	ランチョン セミナー2			
12:45	12:45	12:45	岡本和也	和田康弘			
13:00	総 会						掲 示
14:00	会長講演 中村重信						
15:00	S3 「オリゴデンドロサイトをめぐる最近の話題」	S4 「神経分化の発達とメカニズム」	WS4 「細胞骨格・接着因子の役割とその異常」	WS5 「アミロイドシスの分子病理; アミロイド線維形成機序と治療戦略」	口演 (V1) 神経伝達物質情報伝達	口演 (V2) モデル動物神経細胞死	
16:00							
16:48					16:48	16:34	
17:00							ポスター (P1) 討 論
18:00			イブニング セミナー 水野美邦				撤 去
19:00					ビアパーティ		

第3日目 9月17日(金) 日程表

S: シンポジウム WS: ワークショップ

	A会場 (ヒマワリ)	B会場 (ダリア1)	C会場 (ダリア2)	D会場 (コスモス1)	E会場 (コスモス2)	F会場 (ラン1)	ポスター会場 (会議運営事務局)
9:00	S5 「ポリグルタミン病の解明にむけて」	S6 「免疫性神経疾患の発症をめぐって」	WS6 「神経の再生の新しいアプローチ」	WS7 「神経栄養因子受容体機能制御」	口演 (V3) 痴 呆	口演 (V4) 精神疾患 虚 血	ポスター (P2) 貼 付
10:00							
11:00					11:06		掲 示
12:00			ランチョン セミナー3 馬場正之 梶 龍児				ポスター (P2) 討 論
13:00	S7 「パーキンソン病の分子生物学」	S8 「てんかん及びその類縁疾患の分子遺伝学」	WS8 「脳血液関門とトランスポーター」	WS9 「痛みの神経化学的機序」	13:50		掲 示
14:00					口演 (V5) 栄養因子	口演 (V6) 細胞分化 細胞骨格 代 謝	
15:00							撤 去
16:00					15:56		
17:00							
18:00							
19:00							

日本神経化学会からのお知らせ

1. 総 会

日時：9月16日（木）12：45—13：30

場所：A会場（ヒマワリ）

議題（予定）

1. 理事長報告
2. 庶務報告
3. 委員会報告
4. 平成11年度理事改選結果報告
5. 平成10年度決算の件
6. 平成12年度予算の件
7. 評議員選任の件
8. 次期大会の件
9. その他

2. 評議員会

日時：9月16日（木）12：00—12：45

場所：B会場（ダリア1）

議題（予定）

日本神経化学会の現状と将来

3. 各種委員会

将来計画委員会

9月15日（水）12：00—13：00（E会場：コスモス2）

シンポジウム企画委員会

9月15日（水）12：00—13：00（F会場：ラン1）

編集委員会

9月17日（金）12：00—13：00（E会場：コスモス2）

研究助成金等候補者選考委員会

9月17日（金）12：00—13：00（F会場：ラン1）

ISNプログラム検討委員会

9月17日（金）12：00—13：00（小会議室：ラン2）（予定）

会長講演・公開シンポジウム

会長講演

9月16日（木）13：30－14：00

広島国際会議場（A会場：ヒマワリ）

司会：三木 直正（大阪大学大学院医学系研究科情報薬理学）

スフィンクスとミューズー神経化学の臨床応用ー

中 村 重 信

広島大学医学部内科学第3

合同公開シンポジウム

第42回日本神経化学会・第29回日本神経精神薬理学会

9月15日（水）

広島国際会議場（A会場：ヒマワリ）

S10. アルツハイマー病をどうして治すか

ー神経化学からのアプローチー

10：00－12：00

司会：中村 重信（広島大学医学部内科学第3）、鍋島 俊隆（名古屋大学医学部薬剤部）

S10-1. アルツハイマー病はどうして起こるかー神経化学の成果

中村 重信（広島大学医学部内科学第3）

S10-2. アルツハイマー病治療薬の現状と展望

鍋島 俊隆（名古屋大学医学部薬剤部）

13：00－17：00

Opening remarks

Shigenobu Nakamura (Third Department of Internal Medicine, Hiroshima University)

公開シンポジウム

Chairpersons Rossor MN (UK), Nakamura S (Japan)

S10-3. Biological functions of the presenilins - components of a high molecular weight protein complex

Peter H. St. George-Hyslop (Toronto Univ., Canada)

S10-4. Studies in presenilin 1 transgenic mice

Takeshi Tabira (National Institute of Neuroscience)

Chairpersons St. George-Hyslop PH (Canada), Tabira T (Japan)

S10-5. Lessons from familial Alzheimer's disease

Martin N. Rossor (National Hospital for Neurology and Neurosurgery, UK)

S10-6. Presenilin function relating to neuronal death of Alzheimer's disease

Masatoshi Takeda, Takeshi Kudo, Yuka Nakano, Yu Nakamura, Toshihisa Tanaka
(Osaka University)

Chairpersons Schenk DB (USA), Sasa M (Japan)

S10-7. A memory systems analysis of Alzheimer's disease

John D. Gabrieli (Stanford Univ., USA)

S10-8. Cholesterol-dependent generation of a seeding amyloid β -protein in cell culture

Katsuhiko Yanagisawa (National Institute for Longevity Sciences)

S10-9. Amyloid burden and neuropathology in PDAPP mice; implications for Alzheimer's disease therapy

Dale B. Schenk (Athena Neuroscience, USA)

S10-10.

Jean-Claude Louis (Neuroscience AMGEN Inc., USA)

Closing remarks

Masashi Sasa (Department of Pharmacology, Hiroshima University)

公開シンポジウム

日本神経化学会公開シンポジウム

9月16日(木) 9:00-12:00

広島国際会議場 (A 会場: ヒマワリ)

S20. 神経情報信号化分子-チャンネル・トランスポーターの生理と病態

オーガナイザー: 佐野 輝 (愛媛大学医学部神経精神医学)

小倉 明彦 (大阪大学大学院理学研究科生物科学)

S20-1. overview

佐野 輝 (愛媛大学医学部神経精神医学)

S20-2. グルタミン酸トランスポーターおよび受容体: 機能異常と病態・創薬

和田 圭司¹、西川 徹²、関口 正幸¹

(¹ 国立精神・神経センター神経研究所疾病研究第4部、² 同第3部)

S20-3. 神経伝達物質トランスポーターの機能と病態

斎藤 尚亮、酒井 規雄、白井 康仁、阪井 一雄、大倉 陸美、上山 健彦
(神戸大学バイオシグナル研究センター・分子薬理分野)

S20-4. Ca^{2+} チャンネルと小脳失調症

井本 敬二 (岡崎国立共同研究機構生理学研究所、
総合研究大学院大学生命科学研究科)

S20-5. Na^{+} チャンネル・ K^{+} チャンネルと知覚障害

横山 茂 (金沢大学大学院医学研究科分子情報系独立専攻・細胞遺伝子学)

S20-6. クロライドチャネルの機能とその異常による細胞病態

岡田 泰伸 (岡崎国立共同研究機構生理学研究所機能協関部門、
CREST・科学技術振興事業団)

S20-7. concluding remarks

小倉 明彦 (大阪大学大学院理学研究科生物科学)

シンポジウム**シンポジウム****9月16日(木) 9:00-12:00****S1 神経老化の最前線****(B会場：ダリア1)**

司会：森 啓 (大阪市立大学医学部)

老年医学研究部門脳神経系分野)

三森 康世 (広島大学医学部内科学第3)

S1-PL. 多彩な老化症状に関連する Klotho 遺伝子発見の生物学的意義

鍋島 陽一

京都大学大学院医学研究科腫瘍生物

S1-1. ヒト細胞の老化と不死化

井出 利憲

広島大学医学部総合薬学科薬品分析化学

S1-2. ミトコンドリアと老化

紙野 晃人、太田 成男

日本医科大学老人病研究所生化学部門

S1-3. 老化関連遺伝子の多型と疾患

三木 哲郎

愛媛大学医学部老年医学

S1-4. 老化促進モデルマウス SAMP8 脳に見られる代謝異常

黒川 知則、西谷 しのぶ、樫木 修

広島大学医学部総合薬学科薬効解析科学

S1-5. D-アミノ酸と神経の老化

富山 貴美、森 啓

大阪市立大学医学部老年医学研究部門脳神経系分野

9月16日(木) 9:00-12:00**S2 精神分裂病の神経化学的病態に関する新しいアプローチ****(C会場：ダリア2)**

司会：西川 徹 (国立精神・神経センター神経研究所)

新井 平伊 (順天堂大学医学部精神医学)

S2-PL. 精神分裂病の神経化学融 道男¹、西川 徹²

シンポジウム

¹メンタルクリニックおぎくぼ、²国立精神・神経センター神経研究所

S2-1. メタンフェタミン動物モデル研究から

秋山 一文

岡山大学医学部神経精神医学

S2-2. フェンサイクリジン動物モデル研究から

山本 直樹、海野 麻未、平岡 秀一、土田 英人、西川 徹

国立精神・神経センター神経研究所第3部

S2-3. 死後脳研究から - グルタミン酸作動系を中心として

大沼 徹

順天堂大学医学部精神医学

S2-4. 精神分裂病のPET から

須原 哲也

科学技術庁放射線医学総合研究所、高度診断機能研究ステーション、CREST

S2-5. 抗精神病薬の薬理学的研究から

渡辺 雅幸^{1,2}、萩野 洋子¹、開地 泰介¹、野中 良一¹

¹東京都精神医学総合研究所精神薬理、²昭和大学附属烏山病院

9月16日（木）14:00-17:00

S3 オリゴデンドロサイトをめぐる最近の話題

（A会場：ヒマワリ）

司会：池中 一裕（岡崎国立共同研究機構生理学研究所）

松本 昌泰（大阪大学大学院医学系研究科

病態情報内科学）

S3-PL. オリゴデンドロサイトの発生・分化と生理機能

鹿川 哲史¹、A. Ivanova¹、和田 圭樹¹、河野 真子¹、岩崎 靖乃¹、大庭 明生¹

馬場 広子²、池中 一裕¹

¹岡崎国立共同研究機構生理学研究所、²名古屋市立大学医学部第2生理

S3-1. オリゴデンドロサイトのアポトーシス

三浦 正幸

大阪大学大学院医学系研究科神経機能解剖

S3-2. オリゴデンドログリアにおけるグルタミン酸毒性

吉岡 亮¹、廣瀬 源二郎¹、David Pleasure²

¹金沢医科大学神経内科、²Children's Hospital of Philadelphia, USA

S3-3. 慢性脳低灌流による白質障害

富本 秀和、脇田 英明、松尾 明典、秋口 一郎

京都大学大学院医学研究科脳病態生理（臨床神経学）

シンポジウム

S3-4. 脳虚血におけるオリゴデンドロサイトの動態

北川 一夫、松本 昌泰、柳原 武彦、堀 正二

大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学、神経機能医学

S3-5. Binswanger 型白質脳症と Oligodendrocytes

山之内 博

東京都老人医療センター神経内科

9 月 16 日 (木) 14 : 00-17 : 00

S4 神経分化と発達のメカニズム

(B 会場 : ダリア 1)

司会 : 小幡 邦彦 (岡崎国立共同研究機構

生理学研究所神経化学)

三國 雅彦 (群馬大学医学部神経精神医学)

S4-PL. ショウジョウバエ神経幹細胞の分化と遺伝子

堀田 凱樹

国立遺伝学研究所

S4-1. 脳の神経回路形成における拡散性、非拡散性因子の役割

村上 富士夫、白崎 竜一、勝又 隆太

大阪大学大学院基礎工学研究科生物工学分野神経生理学

S4-2. ドレブリンの発現変化と樹状突起スパインの形態変化

白尾 智明、関野 祐子、林 謙介

群馬大学医学部行動分析学

S4-3. 運動ニューロンの発生の分子的基盤

田辺 康人

大阪バイオサイエンス研究所第 4 研究部

S4-4. fyn ノックアウトマウスの情動神経機構の発生と機能解析

湯浅 茂樹¹、八木 健²

¹千葉大学医学部解剖学第 2、²岡崎国立共同研究機構生理学研究所

S4-5. 精神分裂病の発達障害仮説と機能形態学

池田 研二、入谷 修司、黒木 規臣

東京都精神医学総合研究所、東京都立松沢病院

9 月 17 日 (金) 9 : 00-12 : 00

S5 ポリグルタミン病の解明にむけて

(A 会場 : ヒマワリ)

シンポジウム

司会：池田 穰衛（東海大学総合医学研究所）
辻 省次（新潟大学脳研究所神経内科学）

S5-PL. ポリグルタミン病における神経細胞死のメカニズム

垣塚 彰
大阪バイオサイエンス研究所第4研究部

S5-1. DRPLA における神経細胞死

下畑 享良¹、山田 光則²、五十嵐 修一¹、小野寺 理¹、小出 怜爾¹、佐藤 晶¹
佐藤 俊哉¹、野崎 兼吉¹、高橋 均²、辻 省次¹
¹新潟大学脳研究所神経内科学、²同病理学

S5-2. 歯状核赤核淡蒼球レイ体萎縮症の責任遺伝子の機能と、培養細胞モデル実験系での細胞死の機構

山田 正夫
国立小児病院小児医療研究センター先天異常研究部

S5-3. ハンチントン舞踏病の動物モデル

石黒 啓司
藤田保健衛生大学総合医科学研究所難病治療研究部門

S5-4. SCA6 発症に及ぼすポリグルタミンの作用

松山 善次郎¹、若森 実¹、森 泰生¹、井本 敬二¹、川上 秀史²、中村 重信²
¹岡崎国立共同研究機構生理学研究所液性情報部門、²広島大学医学部内科学第3

S5-5. チャンネルにおけるポリグルタミンの分子生物学

田邊 勉
東京医科歯科大学大学院認知行動医学系高次機能薬理学

9月17日（金）9：00-12：00

S6 免疫性神経疾患の発症のメカニズムをめぐって

（B会場：ダリア1）

司会：吉良潤一（九州大学医学部附属脳神経病研究施設
内科部門）

楠 進（東京大学医学部神経内科）

S6-PL. HAM 研究の最近の進展

納 光弘
鹿児島大学医学部内科学第3

S6-1. 多発性硬化症の免疫病態の解析

山村 隆
国立精神・神経センター神経研究所免疫研究部

シンポジウム

S6-2. HAM/TSP : ウイルス感染細胞と中枢神経内免疫担当細胞の相互作用の観点から

松井 真

国立療養所宇多野病院神経内科

S6-3. 視神経脊髄型多発性硬化症の臨床的・免疫学的特徴と戦後 50 年間における病像の変化

吉良 潤一

九州大学医学部附属脳神経病研究施設内科部門

S6-4. 自己免疫性ニューロパチーと抗糖脂質抗体

楠 進

東京大学医学部神経内科

S6-5. 多発性硬化症における血管内皮細胞の活性化/ 傷害

郡山 達男、池田 順子、越智 一秀、中村 重信

広島大学医学部内科学第 3

9 月 17 日 (金) 13 : 00-16 : 00

S7 パーキンソン病の分子生物学

(A会場 : ヒマワリ)

司会 : 太田 茂 (広島大学医学部総合薬学科社会薬学)

水野 美邦 (順天堂大学医学部脳神経内科)

S7-PL. パーキン遺伝子の構造と機能

清水 信義

慶応義塾大学医学部分子生物学

S7-1. 家族性パーキンソン病

松峯 宏人

順天堂大学医学部脳神経内科

S7-2. パーキンソン病発症環境因子

古武 弥一郎、太田 茂

広島大学医学部総合薬学科社会薬学

S7-3. N-methyl(R)salsolinol によるドパミン神経細胞死

丸山 和佳子¹、直井 信²

¹ 長寿医療研究センター老化機構研究部生化学代謝研究室

² 応用生化学研究所脳科学研究部門

S7-4. 酸化ストレスとドーパミンニューロン

澤田 秀幸¹、衣斐 督和²、赤池 昭紀²、下濱 俊¹

¹ 京都大学大学院医学研究科脳病態生理 (臨床神経学)

² 京都大学大学院薬学研究科薬品作用解析

S7-5. ドパミントランスポーターとパーキンソン病

シンポジウム

川上 秀史、森野 豊之、中村 重信
広島大学医学部内科学第3

9月17日（金）13:00-16:00

S8 てんかん及びその類縁疾患の分子遺伝学

（B会場：ダリア1）

司会：笹 征史（広島大学医学部薬理学）
兼子 直（弘前大学医学部神経精神医学）

S8-PL. てんかんモデル動物

笹 征史¹、秋光 知英²、栗栖 薫²、北田 一博³、芹川 忠夫³
¹広島大学医学部薬理学、²同脳神経外科学、³京都大学医学部附属動物実験施設

S8-1. CACNA1A 遺伝子変異に基づく神経疾患の分子遺伝学

辻 省次、五十嵐 修一、高橋 哲哉、志知 隆雄、小野寺 理
新潟大学脳研究所神経内科学

S8-2. 良性成人型家族性ミオクローヌスてんかん（benign adult familial myoclonic epilepsy : BAFME）病因遺伝子の連鎖解析

佐野 輝¹、三神 正昭¹、安田 雄²、寺尾 章²、中村 雅之¹、上野 修一¹
田辺 敬貴¹、兼子 直³、田中 敏博¹、後藤 雄一⁵、大沼 悌一⁶
¹愛媛大学医学部神経精神医学、²川崎医科大学神経内科、³弘前大学医学部神経精神
医学、⁴東京大学医科学研究所、⁵国立精神・神経センター、⁶国立療養所犀潟病院

S8-3. 日本人 Autosomal dominant nocturnal frontal lobe epilepsy (ADNFLE) と Benign familiar neonatal convulsion 2 (BFNC2) での新しい遺伝子変異

廣瀬 伸一¹、岩田 洋美¹、穂吉 秀隆¹、善利 史子¹、福間 五龍¹
米谷 美奈子¹、小林 健一郎²、伊藤 正利²、松島 信昭³、杉山 博之³
村中 英樹¹、和田 一丸⁵、兼子 直⁵、満留 昭久¹
¹福岡大学医学部小児科学、²滋賀県立小児保健医療センター小児科、³九州大学
理学部生体物理、⁴弘前大学医学部小児科、⁵同神経精神科

S8-4. Lafora 病と小児欠神てんかん

山川 和弘
理化学研究所・脳科学総合研究センター・神経遺伝

S8-5. 抗てんかん薬とイオンチャンネル

岡田 元宏、兼子 直
弘前大学医学部神経精神医学

ワークショップ**ワークショップ****9月16日(木) 9:00-12:00****WS1 シナプスの可塑性のダイナミックス (D会場: コスモス1)**

司会: 高橋 正身 (三菱化学生命科学研究所)

中村 重信 (広島大学医学部内科学第3)

WS1-1. リン酸化による神経伝達物質放出制御

高橋 正身

三菱化学生命科学研究所

WS1-2. シナプス小胞リサイクリングと放出制御

黒見 坦、城所 良明

群馬大学医学部行動医学研究施設行動生理部門

WS1-3. NMDA 受容体チロシンリン酸化と神経シナプスの可塑性

手塚 徹、中澤 敬信、久恒 智博、梅森 久視、山本 雅

東京大学医科学研究所制癌研究部

WS1-4. 海馬長期増強の維持相における活性型 CaM キナーゼIIの局在

福永 浩司、宮本 英七

熊本大学医学部薬理学第1

WS1-5. 視床-皮質投射路に存在するサイレントシナプスの発達におけるBDNFの必要性中村 俊¹、伊丹 千晶¹、河野 朋子¹、水野 恭伸²¹ 国立精神・神経センター神経研究所, ² 長崎大学薬学部**WS1-6. 神経細胞特異的 NO 合成酵素 (nNOS) による細胞増殖・分化因子としての****一酸化窒素 NO の生成**阿部 一樹^{1,2}、井上 順雄¹、中山 孝¹、佐藤 光¹、平原 史樹²、加藤 尚彦¹¹ 横浜市立大学医学部生化学第1、² 同産婦人科**WS1-7. 老化促進モデルマウス (SAM) 脳の神経化学的異常と記憶・情動障害**

大熊 康修、村山 俊彦、上原 孝、野村 靖幸

北海道大学大学院薬学研究科薬理学分野

9月16日(木) 9:00-12:00**WS2 神経変性とアポトーシス (E会場: コスモス2)**

司会: 遠山 正彌 (大阪大学医学部機能形態学)

阿部 康二 (岡山大学医学部神経内科)

WS2-1. Caspase と細胞死

ワークショップ

菅野 雅元

広島大学医学部免疫学寄生虫学

WS2-2. 分裂終了ニューロンのAPP695 強制発現によるカスパーゼ活性化と アポトーシス誘導

植月 太一¹、西村 伊三男¹、竹本 研¹、桃井 隆²、三浦 正幸³、吉川 和明¹

¹大阪大学蛋白質研究所蛋白質機能制御部門

²国立精神・神経センター神経研究所疾病研究第5部、³大阪大学医学部神経機能解剖

WS2-3. ショウジョウバエをモデルとしたアポトーシス実行機構の解明

嘉穂 洋陸、三浦 正幸、岡野 栄之

大阪大学大学院医学系研究科神経機能解剖

WS2-4. 神経細胞死誘導に関与する細胞周期調節蛋白質 CDK4 と cyclin D1

稲生 英俊

千葉大学医学部解剖学第3

WS2-5. High-density Oligonucleotide DNA Array (Gene Chip™, Affymetrix) を用い たマウス前脳虚血モデルにおける遺伝子発現変化の検討

永田 俊人、浅井 聡、高橋 泰夫、趙 恒、石川 紘一

日本大学医学部薬理学

WS2-6. フェニトイン (PHT) のマウス小脳顆粒細胞及びプルキンエ細胞への 発達神経毒性

大森 啓充¹、山下 敬介¹、安田 峯生¹、小倉 博雄²、道川 貴章³

御子柴 克彦³、中村 重信¹

¹広島大学医学部解剖学第1、²エーザイ筑波研究所

³東京大学医科学研究所、⁴広島大学医学部内科学第3

WS2-7. ポリグルタミン凝集の時間経過と細胞死

豊島 至¹、菅原 正伯¹、加藤 一磨¹、和田 千鶴¹、下畑 享良²、小出 玲爾²

小野寺 理²、辻 省次²

¹秋田大医学部内科学第1、²新潟大学脳研究所神経内科

WS2-8. パーキンソン病とアポトーシス

永津 俊治¹、茂木 真希雄²、一瀬 宏¹、戸荻 彰史²

¹藤田保健衛生大学総合医科学研究所分子遺伝学

²愛知学院大学歯学部薬理学

WS2-9. 運動ニューロン死とアポトーシス

割田 仁^{1,2}、阿部 康二¹

¹岡山大学医学部神経内科

²東北大学医学部神経内科

9月16日(木) 9:00-12:00

WS3 Peroxisome 病の発症機序 (F会場: ラン1)

司会: 宮武 正 (昭和薬科大学薬学部薬物治療学)

ワークショップ

山田 猛 (九州大学医学部附属脳神経病研究施設内科部門)

WS3-1. Peroxisomal Membrane Protein 20 (PMP20) の機能

山下 拓史¹、中村 重信¹、Suresh Subramani²、Hava Avraham³

¹ 広島大学医学部内科学第3、² University of California San Diego

³ Harvard Medical School

WS3-2. ペルオキシソームは PC12D 細胞の神経突起中に多数存在する

石川 哲也¹、川井 千景¹、佐野 護²、湊川 洋介¹

¹ 川崎医科大学医学部生化学1、² 京都府立医科大学生物

WS3-3. クロロキン・ミオパチーにおけるタウの蓄積

小山 文隆¹、井原 康夫^{1,2}

¹ 東京大学大学院医学系研究科神経病理学、² 科学技術振興事業団 (CREST)

WS3-4. Adrenoleukodystrophy の分子病態

山田 猛、新納 信江、吉良 潤一

九州大学医学部附属脳神経病研究施設内科部門

WS3-5. Adrenoleukodystrophy の遺伝子解析

小池 亮子、高野 弘樹、辻 省次

新潟大学脳研究所神経内科

WS3-5 追加発言. Adrenoleukodystrophy の画像診断

越智 一秀、川上 秀史、大下 智彦、井門 ゆかり、野田 公一、中村 重信

広島大学医学部内科学第3

WS3-6. ペルオキシソーム欠損症の病因遺伝子

藤木 幸夫

九州大学大学院理学研究科生物科学専攻、科学技術振興事業団 (CREST)

WS3-7. 新しいペルオキシソーム病; D-3-hydroxyacyl-CoA dehydratase deficiency

鈴木 康之

岐阜大学医学部小児科

9月16日(木) 14:00-17:00

WS4 細胞骨格・接着因子の役割とその異常 (C会場: グリア2)

司会: 小宮 義璋 (群馬大学医学部分子病態学)

山脇 成人 (広島大学医学部神経精神医学)

WS4-1. 神経系におけるギャップ結合の局在と機能

小山田 正人、長岡 孝則、小山田 ゆみ子、高松 哲郎

京都府立医科大学病理学第2

WS4-2. 細胞接着因子ギセリンのラットにおける発現と機能解析

平 英一¹、奥村 茂樹¹、塚本 康浩²、村岡 修¹、佐々木 文彦²、三木 直正¹

¹ 大阪大学大学院医学系研究科情報薬理、² 大阪府立大学大学院獣医解剖

WS4-3. ミクログリアの膜ラフリング形成と貪食能における Iba1 の役割

ワークショップ

今井 嘉紀、大澤 圭子、金澤 裕子、佐々木 洋、高坂 新一
国立精神・神経センター神経病研究所代謝研究部

WS4-4. アルツハイマー病とタウオパチー

武田 雅俊、田中 稔久、工藤 喬、中村 祐
大阪大学大学院医学系研究科神経機能医学精神医学

WS4-5. タウ結合タンパク質の検索

村山 洋、村山 美由紀、高島 明彦
理化学研究所脳科学総合研究センターアルツハイマー病研究チーム

WS4-6. 家族性前頭側頭型痴呆 (Frontotemporal dementia and parkinsonism linked to chromosome 17:FTDP-17) にみられる変異 tau を発現する CHO 細胞の解析

松村 展敬¹、山崎 恒夫¹、井原 康夫^{1,2}

¹ 東京大学大学院医学系研究科神経病理学、² 科学技術振興事業団 (CREST)

WS4-7. アルコール・薬物依存と細胞内分子機構

西田 朗¹、久岡 一恵¹、前正 秀宣^{1,2}、岡本 泰昌^{1,2}、山脇 成人²

¹ 国立県病院臨床研究部精神神経科学研究室、² 広島大学医学部神経精神医学

WS4-8. 細胞膜内における Gs α の可動性に対する慢性抗うつ剤投与の影響

土岐 完^{1,2}、小沢 寛樹¹、山口 高史¹、鵜飼 渉¹、Robert J. Donati³

Mark M. Rasenick³、齋藤 利和¹

¹ 札幌医科大学医学部神経精神医学、² 五稜会病院

³ イリノイ州立大学医学部生理学

9 月 16 日 (木) 14 : 00 - 17 : 00

WS5 アミロイドーシスの分子病理 ;

アミロイド線維形成機序と治療戦略 (D 会場 : コスモス 1)

司会 : 前田 秀一郎 (山梨医科大学学生化学第 1)

柳澤 勝彦 (長寿医療研究センター痴呆疾患研究部)

WS5-PL. アミロイド線維形成機構の反応速度論的解析

内木 宏延

福井医科大学病理学第 2

WS5-1. 遺伝子改変マウスを用いたヒト遺伝性アミロイドーシス発症機構の解明

前田 秀一郎

山梨医科大学医学部生化学第 1

WS5-2. 分泌型アミロイド前駆体蛋白の機能とその結合蛋白

大澤 郁朗¹、高村 千鶴子¹、森本 高子²、高坂 新一¹

¹ 国立精神・神経センター神経研究所代謝研究部、² 東京大学大学院理学研究科

WS5-3. 老化促進モデルマウス (SAM) を用いたマウス老化アミロイドーシス発症機構の解析

樋口 京一

ワークショップ

信州大学医学部加齢適応研究センター脈管病態分野

WS5-4. ヒト脳におけるアミロイド β 蛋白質の蓄積の生化学的解析

森島 真帆、井原 康夫

東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻神経病理学

科学技術振興事業団 (CREST)

WS5-5. アルツハイマー病発症におけるラセミ化 β アミロイド (D-Ser26 β 1-40) の役割

金子 勲、久保 武一、森本 潔、熊谷 善弘

三共株式会社神経科学研究所

WS5-6. アルツハイマー病アミロイド形成と神経細胞障害における NAC と A β 蛋白の相互作用

田中 静吾、竹橋 正則、間藤 尚美、上田 國寛

京都大学化学研究所生体反応設計 III

9 月 17 日 (金) 9 : 00-12 : 00

WS6 神経の再生の新しいアプローチ (C 会場 : ダリア 2)

司会 : 植村 慶一 (慶応大学医学部生理学)

板倉 徹 (和歌山医科大学脳神経外科)

WS6-1. 神経「温存」再生のための遺伝子探索とその機能解析

木山 博資、瀬尾 寿美子、涛川 一彦

旭川医科大学解剖学第 1

WS6-2. グリオシスに特異的な新規 CREB/ATF ファミリー転写調節因子 OASIS の同定

和中 明生¹、二階堂 琢也²、森 徹自¹、横屋 幸彦¹、本間 豊¹、金沢 賢也¹、
竹内 真由美¹、菊地 臣一²

¹ 福島県立医科大学学生体情報伝達研究所細胞科学研究部門、² 整形外科

WS6-3. 哺乳動物の中樞神経伝導路の再生

井上 辰志¹、栗栖 薫¹、川口 三郎²

¹ 広島大学医学部脳神経外科、² 京都大学医学部認知行動脳科学

WS6-4. 神経再生とミクログリアの活性化-ATP によるラッフル形成の促進-

本田 静世¹、大澤 圭子¹、Fernand Lopez-Redondo¹、井上 和秀²、高坂 新一¹

¹ 国立精神・神経センター神経研究所代謝研究部、² 国立医薬品食品衛生研究所薬理

WS6-5. ミクログリア細胞移植による神経再生へのアプローチ

澤田 誠

科学技術振興事業団さきがけ研究、藤田保健衛生大学総合医科学研究所難病治療
共同研究部門

WS6-6. セルソーターを用いた神経幹細胞と神経前駆細胞の選別と脊髄損傷への 応用の試み

小川 祐人^{1,2,1}、宮田 卓樹^{1,2}、沢本 和延^{1,2}、川口 綾乃^{1,3}、戸山 芳昭¹

岡野 栄之^{1,2}

¹ 大阪大学大学院医学系研究科神経機能解剖学、² 科学技術振興事業団 (CREST)

ワークショップ

³大阪大学医学部眼科学、¹慶應義塾大学医学部整形外科学

WS6-7. 新たな神経再生調節因子としての酸化型 Garectin-1

堀江 秀典¹、稲垣 好昌²、相馬 良明²、野沢 りさ²、大川 克也³
長谷川 光広¹、村松 直樹¹、川野 仁⁵、堀江 正男⁵、小山 洋道⁶
酒井 偉久子¹、竹下 歌織¹、小和田 祐紀¹、高野 雅彦⁷、門屋 利彦²

¹横浜市立大学医学部生理学第1、⁷横浜市立大学医学部眼科

²キリンビール医薬探索研、³キリンビール基盤技術研究所

¹金沢大学医学部脳神経外科、⁵都神経研解剖発生、⁶横浜市立大学看護短期大学

WS6-8. 成熟ラット海馬における神経細胞新生は虚血ストレスにより亢進する

八木田 桂樹¹、松本 昌泰^{1,2}、北川 一夫¹、高沢 健一郎¹、大槻 俊輔¹
桑原 敬介¹、馬淵 卓真¹、田中 茂¹、柳原 武彦²、堀 正二¹

¹大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学、²神経機能医学

WS6-9. GDNF 遺伝子導入細胞移植による黒質ドーパミン細胞の保護と再生促進

中尾 直之、板倉 徹

和歌山県立医科大学脳神経外科

9月17日（金）9:00-12:00

WS7 神経栄養因子受容体機能制御 (D会場：コスモス1)

司会：畠中 寛（大阪大学蛋白質研究所）

栗山 勝（福井医科大学第2内科）

WS7-1. 神経栄養因子とシャペロン蛋白

小池 達郎、田中 秀逸、三浦 真紀
北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻

WS7-2. 免疫細胞によるニューロトロフィンの産生・応答とその生理的意義

古川 昭栄、浅見 利雄、新田 淳美
岐阜薬科大学分子生物学

WS7-3. 神経栄養因子受容体とガングリオシド

武藤 多津郎
福井医科大学第2内科

WS7-4. bFGF,NGF および EGF におけるシグナル伝達経路の検討

山口 知子¹、川俣 貴一²、新家 一男³
¹東京女子医科大学医学部生化学、²東京女子医科大学医学部脳神経外科
³東京大学分子細胞生物学研究所

WS7-5. 成長因子で活性化される Fyn による AMPA 型グルタミン酸受容体の発現制御

斎藤 真子^{1,2}、Alcino J. Silva²、山口 剛¹、林 崇³、山本 雅³、那波 宏之^{1,2}
¹新潟大学脳研究所分子神経生物学、²Cold Spring Harbor Laboratory
³東京大学医科学研究所制癌研究部

WS7-6. 神経細胞アポトーシス制御機構における NF-κB と p 75 の関連

ワークショップ

浜之上 誠^{1,2,4}、大橋 十也^{2,3}、仲嶋 一範¹、Alun Davies¹、衛藤 義勝^{2,3}

¹東京慈恵会医科大学 DNA 医学研究所分子神経学研究部門、²同遺伝子治療、³同小児科

⁴St. Andrews 大学

WS7-7. 肝細胞増殖因子受容体 c-MET を介した細胞種特異的シグナル伝達機構

町出 充、神鳥 和代、高坂 新一

国立精神・神経センター神経研究所代謝研究部

WS7-8. 筋萎縮性側索硬化症と神経栄養因子

祖父江 元

名古屋大学医学部神経内科

9月17日(金) 13:00-16:00

WS8 脳血液関門とトランスポーター (C会場:ダリア2)

司会: 金井 好克 (杏林大学医学部薬理学)

下濱 俊 (京都大学大学院医学研究科脳病態生理 (臨床神経学))

WS8-1. 血液脳関門におけるトランスポーター介在薬物輸送

辻 彰、玉井 郁巳

金沢大学薬学部薬効動態学

WS8-2. 中枢神経における中性アミノ酸トランスポーターの同定

金井 好克

杏林大学医学部薬理学、科学技術振興事業団さきがけ研究

WS8-3. マウス継代脳血管内皮細胞 (MBEC4) を用いた L-DOPA の脳血液関門輸送機構の解析

景山 卓、下濱 俊

京都大学大学院医学研究科脳病態生理 (臨床神経学)

WS8-4. アストロサイト産生因子による血液脳関門形質発現の誘導

山本 直樹¹、祖父江 和哉²、米田 和広³、三浦 裕¹、浅井 清文¹、加藤 泰治¹

¹名古屋市立大学医学部分子医学研究所生体制御部門

²名古屋市立大学医学部麻酔蘇生学、³名古屋市立大学薬学部製剤学

WS8-5. 炎症性サイトカインによる血管脳関門の細胞接着分子の発現調節

山脇 正永、神田 隆、水澤 英洋

東京医科歯科大学神経内科

WS8-6. ラット脳虚血時の脳血液関門とグルタミン酸再吸収機構の脳温による影響

浅井 聡、趙 恒、永田 俊人、高橋 泰夫、石川 紘一

日本大学医学部薬理学

WS8-7. 心停止後の血液脳関門および血液脊髄関門の機能的変化-心停止、蘇生マウスを用いた hemodynamic study-

水島 秀勝^{1,3}、W.A.Banks³、土肥 謙二¹、中村 精紀¹、松本 清¹、塩田 清二²

¹昭和大学医学部脳神経外科、²昭和大学医学部解剖学第1

ワークショップ

³VAMC, St. Louis University

9月17日(金) 13:00-16:00

WS9 痛みの神経化学的機序 (D会場: コスモス1)

司会: 佐藤 公道 (京都大学薬学研究科生体機能解析学分野)

仲田 義啓 (広島大学医学部総合薬学科薬効解析科学)

WS9-1. 痛覚閾値に対するドパミン受容体の作用-特に部位差の検討-

野元 正弘、清水 隆雄、福田 健夫、益山 隆志

鹿児島大学医学部薬理学

WS9-2. 痛みとサブスタンスP

井上 敦子、森岡 徳光、熊谷 圭、武田 和美、秀 和泉、仲田 義啓

広島大学医学部総合薬学科薬効解析科学

WS9-3. ニューロトロフィンによる痛覚および触覚の調節

荒川 義弘¹、渡邊 真知子¹、遠藤 之洋¹、木元 克輔¹、仙波 りつ子²

¹ 東京大学医学部附属病院分院薬剤部、² 愛知県コロニー研究所

WS9-4. 痛みとオピオイド受容体

南 雅文、佐藤 公道

京都大学薬学研究科生体機能解析学分野

WS9-5. 痛覚伝達系におけるP2X受容体の役割

井上 和秀¹、津田 誠¹、上野 伸哉²

¹ 国立衛生研究所薬理学、² 福岡大学医学部薬理学研究所

WS9-6. 片頭痛関連遺伝子

竹島 多賀夫、足立 芳樹、楠見 公義、古和 久典、中島 健二

鳥取大学医学部脳神経内科

WS9-7. ノシセプチンと痛み

植田 弘師

長崎大学薬学部分子薬理学

WS9-8. 脊髄における痛みの発現機序

南 敏明¹、伊藤 誠二²

¹ 大阪医科大学麻醉科学、² 関西医科大学医化学

一般演題（口演）

口演1（E会場）

9月16日(木) 14:00-16:48

神経伝達物質、情報伝達

14:00-14:56・・・・・・・・・・座長：西尾 廣昭（福山大学薬学部応用薬理）

- V1-01 セロトニンによるラット前頭葉アセチルコリン分泌の制御機構（Ⅶ）：ACh分泌における5-HT_{2A}受容体と5-HT_{1A}受容体との相互関係

平野 均¹、松田 芳人²、渡辺 義文²、平田 牧三¹¹山口大学保健管理センター、²山口大学医学部神経精神医学教室

- V1-02 ラット前頭葉におけるキノリン酸注入後の内在性D-セリンの変化

岩間 久行、山本 直樹、高橋 勝宣、海野 麻未、西川 徹

国立精神・神経センター神経研究所疾病研究第3部

- V1-03 ラット松果体に発現しているAMPA型グルタミン酸受容体の機能

八代 聖基¹、山田 浩司¹、林 美都子¹、山本 章嗣²、坪井 誠二¹、森山 芳則¹¹岡山大・薬・生理化学、²関西医科大・第一生理

- V1-04 副腎におけるNMDAレセプターの発現

檜井 栄一¹、名田 聡美¹、荻田 喜代一¹、米田 幸雄²¹摂南大・薬・薬理、²金沢大・薬・薬物

14:56-15:52・・・・・・・・・・座長：山内 卓（徳島大学薬学部生化学）

- V1-05 ヒスタミンH₁受容体の細胞内internalization

福井 裕行¹、中川 美和子¹、藤本 勝巳²、堀尾 修平¹、久山 哲廣¹¹徳島大学薬学部薬理学、²広島大学歯学部生化学

- V1-06 DAMP法を用いた松果体細胞のシナプス小胞様オルガネラ（マイクロベイクル）内部pHの測定

林 美都子¹、山本 章嗣²、森山 芳則¹¹岡山大・薬・生理化学、²関西医科大・第一生理

一般演題（口演）

- V1-07 神経系細胞における Ca^{2+} 遊離の基本要員 (elementary Ca^{2+} release events) の解析
小泉 修一、井上 和秀
国立衛研・薬理

- V1-08 FK506 binding protein (FKBP) による細胞内 Ca^{2+} 動態の調節機構について
森田 克也、北山 滋雄、土肥 敏博
広島大学歯学部歯科薬理学講座

15 : 52-16 : 48 ・ ・ ・ ・ ・ 座長 : 小泉 修一 (国立衛研・薬理)

- V1-09 神経突起伸展におけるカルモデュリン依存性プロテインキナーゼ II の Ca^{2+} 非依存性活性の役割
祖川 由美、吉村 好之、山内 卓
徳島大学薬学部生化学

- V1-10 小脳顆粒細胞とアストロサイトに存在するカルシウム/カルモデュリン依存性プロテインキナーゼ II デルタの同定と細胞内局在
山本 秀幸、竹内 有輔、福永 浩司、宮本 英七
熊本大学医学部薬理学第一

- V1-11 培養海馬神経細胞におけるCaM kinase IV のリン酸化反応と活性化反応
笠原 二郎、福永 浩司、宮本 英七
熊本大学医学部薬理学第一講座

- V1-12 一本鎖DNA結合蛋白質Pur α のCRE転写活性への影響について
定方 哲史、郭 哲輝、三木 直正
大阪大学大学院医学研究科情報薬理学講座 A6

口演2 (F会場)

9月16日(木) 14:00-16:34

モデル動物、神経細胞死

14 : 00-14 : 56 ・ ・ ・ ・ ・ 座長 : 高松 研 (東邦大学医学部第2生理)

一般演題 (口演)

V2-01 ヒポカルシン遺伝子欠損マウスの電気生理学および行動科学的解析

増尾 好則¹、正木 全¹、宮本 政臣²、高松 研¹¹東邦大学医学部第2生理、²武田薬品工業(株)創薬研究本部

V2-02 長期暗室飼育ラットの視覚野における光刺激に伴うNF-LのCaMKIIによるリン酸化

橋本 亮太¹、中村 祐¹、中舘 和彦²、今村 一之²、武田 雅俊¹¹大阪大学医学部精神医学教室、²大阪バイオ研・神経科学

V2-03 N2a neuroblastoma cell神経突起形成におけるRho-kinaseの関与

中村 祐、橋本 亮太、福所 英里子、柏木 雄次郎、貝淵 弘三、武田 雅俊

大阪大学大学院医学系研究科生体統合医学神経機能医学講座、精神医学

V2-04 神経芽腫細胞を用いたレチノイン酸誘導性神経細胞死の分子機構の解析

高田 尚幸、河本 竹正、Ashraful Islam、久野 友子、中川原 章

千葉県がんセンター生化学研究部

14 : 56-15 : 52 座長 : 加藤 兼房 (愛知県コロニー・研・生化)

V2-05 脱分極による神経細胞死の抑制におけるPI-3kinase及びCaMKIIの関与

池上 浩司、小池 達郎

北海道大・院理・生物科学

V2-06 ガラクトセレブロシド合成酵素欠損マウスの中枢及び末梢神経組織のミエリン脂質異常

武富 保、上村 敬一

信州大医・加齢適応研

V2-07 伝達性海綿状脳症の病態発現とサイトカイン-iNOS系との関連性

玉井 洋一¹、笹原 武志²、小嶋 久子¹、中村 和生¹、瀧 龍雄³、田口 文章³、大谷 義夫¹、三浦 貞則⁴、百溪 英一⁵、関川 賢二⁵¹北里大・医・生化、²同・微生物、³同・医療衛生・臨床微生物、⁴同・医療衛生/医・精神科、⁵農水省・家衛試・分子病理

V2-08 雌雄老化促進モデルマウス(SAMP8)の加齢に伴う脳内核DNA損傷の変化とそれに対する当帰芍薬散の効果について

小松 真紀子、平松 緑

山形県テクノポリス財団生物ラジカル研究所

15 : 52-16 : 34 座長 : 直井 信 (応用生化学研究所 脳科学研究部門)

一般演題（口演）

V2-09 内在性神経毒、N-methyl(R)salsolinolによるアポトーシスとpropargylamine類による細胞死防御に関する研究

直井 信¹、丸山 和佳子²、高橋 勤³

¹応用生化学研究所 脳科学研究部門、²長寿医療研究センター老化機構研究部 生化学代謝研究室、

³愛知江南短期大学

V2-10 ヒト羊膜細胞移植による神経保護作用ーパーキンソン病モデルラットでの検討ー

垣下 浩二¹、中尾 直之¹、桜川 宣男²、板倉 徹¹

¹和歌山県立医科大学 脳神経外科、

²国立精神神経センター 神経研究所 疾病研究第5部

V2-11 アレキサンダー病およびアルツハイマー病患者の中枢神経系に蓄積する α Bクリスタリンのリン酸化について

加藤 兼房¹、稲熊 裕¹、伊東 秀記¹、飯田 佳代¹、岩本 郁子¹、太田 秀臣²、越知 信彦³

¹愛知県コロニー・研・生化、²神奈川県立厚木病院・小児科、

³愛知県心障児療育センター・第二青い鳥学園・小児科

口演3（E会場）

9月17日(金) 9:00-11:06

痴 呆

9:00-9:56・・・座長：内田 洋子（東京都老人総合研究所神経病理）

V3-01 Amyloid β はミクログリアのPKC- δ キナーゼ活性を亢進させ、MARCKSの細胞内トランスロケーションをおこす

中井 真通¹、谷向 知¹、八木 敬子²、斎藤 尚亮²、山本 秀幸³、宮本 英七³、長谷川 浩史¹、

谷口 泰造¹、寺島 明¹、川又 敏男¹、三好 功峰¹、田中 千賀子¹

¹兵庫県立高齢者脳機能研究センター、²神戸大バイオシグナル研究所、³熊本大医・第一薬理

V3-02 異性化アミロイド β の凝集特性

清水 孝彦¹、福田 宏之²、中島 光業¹、森 啓³、白澤 卓二¹

¹都老人研・分子遺伝学、

²PEバイオシステムズ、

³大阪市立大・医

V3-03 Neuro2A細胞においてamyloid β はPKC- α を介してMARCKSをリン酸化する

谷向 知¹、中井 真通¹、長谷川 浩史¹、谷口 泰造¹、寺島 明¹、川又 敏男¹、山本 秀幸²、

福永 浩司²、宮本 英七²、三好 功峰¹、田中 千賀子¹

¹兵庫県立高齢者脳機能研究センター、

²熊本大医・第一薬理

一般演題（口演）

- V3-04 Amyloid β はMAPキナーゼカスケードを介してMARCKSをリン酸化する
 長谷川 浩史¹、中井 真通¹、谷向 知¹、谷口 泰造¹、寺島 明¹、川又 敏男¹、福永 浩司²、
 宮本 英七²、向井 秀幸³、小野 功貴⁴、三好 功峰¹、田中 千賀子¹
¹兵庫県立高齢者脳機能研究センター、²熊本大医・第一薬理、³神戸大・自然科学、⁴神戸大理・生物
- 9 : 56-11 : 06 座長 : 柳澤 勝彦 (国立長寿医療研)
- V3-05 変異型presenilin2トランスジェニックマウス脳内低密度膜ドメインにおけるA β 42の蓄積
 澤村 直哉¹、小山 文隆¹、森島 真帆¹、井原 康夫^{1,2}
¹東京大学医学系研究科神経病理、²CREST
- V3-06 Presenilin-2過剰発現の初代培養神経細胞に対する影響
 荒木 亘¹、湯浅 勝敏²、武田 伸一²、城谷 圭朗¹、高橋 慶吉¹、田平 武¹
¹国立精神・神経センター神経研究所疾病研究第6部、
²同遺伝子工学研究部
- V3-07 β アミロイド蛋白によるMAP1Bの発現誘導とそのリン酸化
 内田 洋子
 東京都老人総合研究所神経病理
- V3-08 ヒスタミンH1受容体とアルツハイマー病 : PETによる研究
 谷内 一彦¹、樋口 真人²、岡村 信行²、佐々木 英忠²、伊藤 正敏³、渡邊 建彦¹
¹東北大学医学系院・薬理、
²東北大学医学系院老年内科、
³東北大・サイクロ
- V3-09 痴呆性疾患と髄液中微量金属元素との関連性について
 正田 孝明¹、藤沢 嘉勝²、佐々木 健²、黒田 洋一郎³
¹愛媛大学病院検査部、
²きのこエスポアル病院、
³東京都立神経科学総合研究所

口演4 (F会場)

9月17日(金) 9:00-11:06

精神疾患、虚血

9 : 00-9 : 56 座長 : 佐野 輝 (愛媛大学医学部神経精神医学)

一般演題（口演）

- V4-01 抑うつ状態を呈したがん患者の神経内分泌機能と画像診断学的所見：感情障害の病態生理との比較
井田 逸朗¹、相原 雅子¹、間島 竹彦¹、織内 昇²、富吉 勝美²、井上 登美夫²、遠藤 啓吾²、三國 雅彦¹
¹群馬大学医学部神経精神医学教室、
²同核医学教室
- V4-02 TRH(thyrotropin-releasing hormone)受容体遺伝子の5'-flanking領域における新規多型の発見とその疾患関連
三神 正昭、中村 雅之、上野 修一、佐野 輝、田辺 敬貴
愛媛大学医学部神経精神医学
- V4-03 電位依存性Na⁺/Ca²⁺チャンネル阻害薬(NS-7)は局所脳虚血後の再灌流時、cAMP依存性プロテインキナーゼ障害を抑制する
田中 耕太郎、福内 靖男、野川 茂、永田 栄一郎、鈴木 重明、傳法 倫久、小堺 有史
慶應義塾大学医学部神経内科
- V4-04 低グルコースによるアセチルコリン合成低下に対するアセチル-L-カルニチンの効果
田中 康一¹、福井 文子¹、川端 輝江²、脇 初枝¹、岩本 真知子¹、近 一夫¹、安藤 進¹
¹東京都老人総合研究所・生体膜部門、²女子栄養大学・基礎栄養学
- 9 : 56-11 : 06 座長：田中 耕太郎（慶應義塾大学医学部神経内科）
- V4-05 NF kappa Bの活性化は低酸素再酸素化後の神経細胞死を抑止する
玉谷 実智夫^{1,3}、松崎 秀夫^{1,3}、山口 淳^{1,3}、岡戸 晴夫²、三宅 進一^{1,3}、遠山 正彌^{1,3}
¹大阪大学大学院医学系研究科機能形態学、
²東京都神経科学研究所病態神経生理、
³CREST, Japan Science and Technology
- V4-06 アストログリア由来の新規ストレス蛋白 ORP150 (150kDa Oxygen Regulated Protein)の分子シャペロンとしての機能の解析
板東 良雄^{1,3}、玉谷 実智夫^{1,3}、小川 智^{2,3}、遠山 正彌^{1,3}
¹大阪大学大学院医学系研究科機能形態学講座（第2解剖）、
²金沢大学医学部第3解剖、
³CREST JST (Japan Science and Technology)
- V4-07 低酸素ストレスで誘導される遺伝子の検索
山口 淳^{1,3}、堀 修^{1,3}、小川 智²、玉谷 実智夫^{1,3}、遠山 正彌^{1,3}
¹大阪大・医・第2解剖、
²金沢大・医・第3解剖、
³CREST JST
- V4-08 Aktの活性化は、一酸化窒素によるBcl-2の低下およびBaxの上昇を抑制する
松崎 秀夫^{1,3}、玉谷 実智夫^{1,3}、満田 憲昭^{1,3}、湊川 一彦²、木山 博資²、三宅 進一^{1,3}、遠山 正彌^{1,3}
¹大阪大・院・医・機能形態学、
²旭川医大・医・第一解剖、
³CREST JST

一般演題 (口演)

- V4-09 ラット脊髄由来培養神経細胞からのhigh-K⁺ 及びNaCNによるアデノシンの放出
田口 康智¹、尾形 直則¹、竹葉 淳¹、Miao Chuai¹、奥村 秀雄¹、中村 洋一²
¹愛媛大学医学部整形外科教室、²生理学教室

口演5 (E会場)

9月17日(金) 13:50-15:56

栄養因子

13 : 50-14 : 46 座長 : 那波 宏之 (新潟大脳研)

- V5-01 BDNF遺伝子プロモーターI及びIIIのカルシウム応答性の違い
田淵 明子、中岡 龍貴、天野 賢示、壹岐 大祐、津田 正明
富山医科薬科大学・薬学部・分子神経生物

- V5-02 genipinによるPC12h細胞のNOSを介したMAPキナーゼのリン酸化
山崎 眞津美、千葉 賢三、毛利 哲郎
北陸大学薬学部生物活性

- V5-03 TNFの神経保護機作
水野 龍義¹、玉谷 実智夫^{1,2}、松崎 秀夫^{1,2}、蔡 榮浩^{1,2}、山口 淳^{1,2}、三宅 進一^{1,2}、遠山 正彌^{1,2}
¹大阪大学大学院医学系研究科機能形態学、
²CREST, Japan Science and Technology

- V5-04 細胞外ATPによるラット脳ミクログリアのTNF- α 産生遊離
田中 将也¹、鈴木 智久¹、井上 敦子¹、秀 和泉¹、井上 和秀²、高坂 新一³、仲田 義啓¹
¹広島大医・総合薬学科薬効解析科学、²国立医薬品食品衛生研究所薬理部、
³国立精神・神経センター神経研・代謝研究部

14 : 46-15 : 56 座長 : 津田 正明 (富山医科薬科大・薬・分子神経生物)

- V5-05 カルシウムチャネルモジュレーターによるラット脳における脳由来神経栄養因子の動態
仙波 りつ子^{1,2}、稲熊 裕¹、竹内 郁夫¹、加藤 兼房¹、岩井 美和子²、御子柴 克彦²
¹愛知県コロニー・研究所、
²東大・医科学研究所、
³CREST, 科学技術振興事業団

一般演題（口演）

- V5-06 イムノフィリンリガンドの神経栄養因子産生誘導作用と神経保護効果
新田 淳美、西岡 博史、古川 昭栄
岐阜薬科大学・分子生物
- V5-07 BDNFとNGFによる一過性グルタミン酸放出作用における細胞内シグナル解析
沼川 忠広¹、松本 知也¹、小島 正己^{1,2}、武井 延之³、畠中 寛¹
¹大阪大蛋白研生合成、
²科技団さがけ21、
³新潟大脳研
- V5-08 NOで誘導されるニューロン死のBDNFによる促進効果は培養日数に依存する
石川 保幸、畠中 寛
大阪大学・蛋白質研究所
- V5-09 大脳皮質ニューロンのBDNFシグナルでのShp-2及びBIT/SHPS-1の機能解析
荒木 敏行、山田 雅司、畠中 寛
大阪大学・蛋白質研究所

口演6（F会場）

9月17日(金) 13:50-15:56

細胞分化、細胞骨格、代謝

13:50-15:00・・・座長：池中 一裕（国立生理学研究所神経情報部門）

- V6-01 培養アストロサイトの遅発性アポトーシス発現におけるプロテアーゼおよびNF- κ Bの役割
田熊 一敏¹、李 英培²、馬場 明道³、松田 敏夫⁴
¹神戸学院大・薬・分析、²薬理、
³大阪大院・薬・神経薬理、⁴複合薬物動態
- V6-02 Inhibition of gap junctional intercellular communication by endogenous and exogenous oxidative stress in retinal horizontal cells
Z. Y. Zhou, K. Sugawara, S. Kato
Department of Molecular Neurobiology Graduate School of Medicine, Kanazawa University

一般演題 (口演)

V6-03 老齡ラットで見られたニューロフィラメント蛋白の構成比変化と軸索輸送

内田 敦子^{1,2}、田代 朋子³、小宮 義璋³、久永 真市¹¹都立大院・理・生物、²東工大・生命理工・バイオサイエンス、³群馬大学・医・分子病態

V6-04 スフィンゴミエリン分解によるラットアストロサイトのアポリポ蛋白 A-I 依存性コレステロール放出の増加

伊藤 仁一、長安 祐子、横山 信治

名古屋市立大学医学部生化学第一

V6-05 ドレブリン関連タンパク質SH3P7の樹状突起内局在

山崎 博幸、白尾 智明

群馬大学医学部行動分析学

15:00-15:56・・・座長：三浦 正幸（大阪大学医学系研究科神経機能解剖）

V6-06 中枢神経系細胞によるアストロサイトのコレステロール代謝の制御

上野 幸子^{1,2}、伊藤 仁一²、長安 祐子²、横山 信治²¹名古屋市立大学医学部精神医学教室、²名古屋市立大学医学部第一生化学

V6-07 HLH型転写因子によるオリゴデンドロサイトの発生分化調節

鹿川 哲史¹、齋藤 哲一郎²、池中 一裕¹¹国立生理学研究所神経情報部門、²国立遺伝学研究所発生工学部門

V6-08 脳の胎児期に優勢な新規遺伝子Bdm2の発現解析

本郷 茂樹、高橋 隆、西中 直也、竹田 二美代、竹田 稔

昭和大学医学部生化学

V6-09 神経芽腫サブセットからのオリゴキャップfull-length cDNAライブラリーの作製およびシーケンシング

大平 美紀¹、高安 肇¹、影山 肇¹、諸橋 愛子¹、宍倉 朋胤¹、河本 竹正¹、高田 尚幸¹、高橋 将人¹、鈴木 穰²、菅野 純夫²、中川原 章¹¹千葉がんセンター・生化、²東大医科研・癌ウイルス

一般演題（ポスター）

ポスター会場

9月16日(木)

貼付	9:00-10:00
掲示	10:00-18:00
討論	17:00-18:00
撤去	18:00-19:00

受容体

- P1-01 細胞膜分画に存在するADP-ribosyl cyclase活性の受容体刺激による変化
東田 陽博、横山 茂、橋井 美奈子、星 直人
金沢大学大学院・医学研究科・分子情報医学・細胞遺伝子学講座
- P1-02 ヒトGluR1a発現細胞及びラット培養大脳皮質細胞におけるCPCCOEtとPHCCCの阻害様式とその性質
丸山 尚治、大沢 ひろみ、塚本 直大、竹内 裕
萬有製薬つくば研究所
- P1-03 ラット脳タイプ1シグマ($\sigma 1$)受容体との会合蛋白質の探索と解析
山本 秀子¹、三浦 玲子²、山本 敏文³、根津 竹哉³、篠原 慶子¹、鷲 直樹¹、山国 徹⁴、
額田 敏秀²
¹(財)東京都精神研精神薬理、²神経化学、³横浜市大院総合理学、⁴三菱生命研
- P1-04 神経細胞におけるNaポンプアイソフォームのイオン輸送活性制御機構の解析
井上 順雄、曾我 智子、加藤 尚彦
横浜市立大学医学部生化学第一
- P1-05 神経軸索上の電位依存性チャネルのクラスター形成におけるPSD-95ファミリーの役割
馬場 広子¹、石橋 智子^{1,2}、秋田 裕美²、池中 一裕²、西野 仁雄¹
¹名古屋市立大学医学部第二生理、²国立生理学研究所

一般演題 (ポスター)

- P1-06 Mitochondria tricaboxylate carrier とホモロジーを示す脳特異的新規遺伝子のクローニング
三宅 進一^{1,4}、玉谷 実智夫^{1,4}、満田 憲昭¹、佐藤 康二²、谷口 学^{1,4}、河合 良訓³、堀 修^{1,4}、
仙波 恵美子³、遠山 正彌^{1,4}

¹大阪大・医・第二解剖、²浜松医大・第一解剖、³和歌山県立医大・第二解剖、⁴CREST、JST

- P1-07 グリアセロトニントランスポーターの薬理学的特徴と可視化

稲津 正人、武田 弘志、松宮 輝彦
東京医科大学薬理学教室

- P1-08 高親和性コリントランスポーターのクローニング

奥田 隆志¹、芳賀 達也¹、金井 好克²、遠藤 仁²、石原 健³、桂 勲³

¹東京大・医・神経生化、CREST、²杏林大・医・薬理、³遺伝研・構造制御、総研大

シナプス

- P1-09 樹状突起にmRNAが局在する新規遺伝子の同定

鈴木 龍雄¹、田 慶宝¹、岡野 照¹、中山 耕造²

¹信州大・医・神経可塑性、²信州大・医・二解剖

- P1-10 成長円錐におけるalpha-latrotoxin依存性の伝達物質放出機構

五十嵐 道弘、小宮 義璋
群馬大・医・分子病態学

- P1-11 新規シナプス小胞タンパク質p36の同定

中山 幸代¹、堀 均¹、韓 春錫²、大倉 多美子³、阿相 皓晃⁴、植村 慶一²、永沢 秀子¹

¹徳島大・工・生物工学、²慶応大・医・生理、³慶応大・先端医科研、⁴都立老人研・細胞生物

一般演題（ポスター）

- P1-12 **神経筋シナプス形成のシグナル分子の解析**
 重本 和宏¹、久保 幸穂²、近藤 郁子¹、丸山 直紀²
¹愛媛大学医学部衛生学、²東京都老人総合研究所分子病理

- P1-13 **シナプトタグミン/ チューブリン相互作用**
 本多 敦子、西須 英雄、阿部 輝雄
 新潟大学脳研究所

細胞骨格

- P1-14 **発育初期における遅い軸索内輸送の変化と細胞骨格成熟過程**
 津田 守弘、田代 朋子、小宮 義璋
 群馬大学医学部分子病態学講座
- P1-15 **ラット脳から新たに分離したNF-H C末尾部キナーゼはGSK3 β であった**
 佐々木 孝寛¹、内田 敦子¹、石黒 幸一²、久永 真市¹
¹都立大院・理、²三菱生命研
- P1-16 **ミクログリア特異的カルシウム結合蛋白質Iba1のアクチン結合能の解析**
 佐々木 洋、今井 嘉紀、大澤 圭子、金澤 裕子、高坂 新一
 国立精神神経センター・神経研・代謝

一般演題 (ポスター)

グリア

- P1-17 ミクログリアにおける転写因子NFAT(Nuclear Factor of Activated T Cells)とカルシニューリン
情報伝達系
大森 信彦、星川 裕、内野 博之、芝崎 太
東京都臨床医学総合研究所細胞生理学研究部
- P1-18 小脳顆粒細胞死に応答し活性化するミクログリア遺伝子 gcd-10の同定
折笠 瑞穂、田中 秀逸、小池 達郎
北海道大・院理・行動知能
- P1-19 ラット培養ミクログリアにおけるMRF-1のカルシウムによる発現調節
賀谷 直樹、橋本 敦史、田中 秀逸、小池 達郎
北海道大・院理・行動知能
- P1-20 培養ミクログリアの生存制御におけるPI 3'-キナーゼとMAPキナーゼの役割
小池 達郎、橋本 敦史、池上 浩司
北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻
- P1-21 ミクログリア遺伝子 mrf-1のネクローシスに応答した発現増加
田中 秀逸、小池 達郎
北海道大・院・理・行動知能
- P1-22 ミクログリア活性酸素産生を増強するトリプシン処理アルブミン由来サブフラグメントの精製
中村 洋一、司 秋生、片岡 喜由
愛媛大学医学部生理学第一

一般演題（ポスター）

P1-23 Mouse Glia Maturation Factor- β 及び- γ のcDNAのクローニング

井上 雄一朗¹、浅井 清文¹、藤田 佳織¹、森川 将行^{1,3}、山本 愛美¹、三浦 裕¹、河合 洋子¹、森山 明彦²、岸本 年史³、飯田 順三³、加藤 泰治¹

¹名古屋市大医学部分子医研生体制御部門、²同自然科学研究教育センター、³奈良医大精神医学講座

P1-24 オリゴデンドロサイトの細胞系譜におけるスフィンゴミエリン

中井 陽子^{1,3}、伊藤 康一²、桜井 洋子¹、足立 達美⁴、国本 学⁵、植村 慶一³、阿相 皓晃¹

¹東京都老人総合研究所・神経生物、²東京都老人総合研究所・炎症、³慶応義塾大・医・生理、

⁴国立環境研究所・地域環境研究

ミエリン

P1-25 ゼブラフィッシュ(Danio rerio) ミエリンDM20のcDNAクローニング

遠山 陽子、一宮 智美、吉田 弘美、栗原 正

創価大・生命研・神経化学

P1-26 マウス脳における新規myelin-associated glycoprotein (MAG) 蛋白質の構造解析

小糸 寿美^{1,2}、岡田 雅人¹、松田 義宏²、永井 克也¹

¹大阪大・蛋白研・代謝、²国立精神神経センター神経研 免疫

P1-27 オリゴデンドロサイト中のII型ペプチジルアルギニンデイミナーゼとその反応産物の検出

秋山 翹一¹、桜井 洋子²、阿相 皓晃²、千秋 達雄¹

¹都老人研生物活性制御、²神経生物

P1-28 P0糖蛋白質の微量成分糖鎖構造解析

北村 邦男、坂本 安、閻 剣虹、野村 正彦

埼玉医大・第一生理

一般演題（ポスター）

- P1-29 ラット小脳白質を認識する抗体12F7の特徴**
吉村 和法^{1,2}、山室 裕³、桜井 洋子²、野村 正彦¹、須川 誠²、阿相 皓晃²
¹埼玉医科大学医学部生理学、²東京都老人総合研究所神経生物、
³日本大学生物資源科学部動物育種学

細胞分化、パターン形成

- P1-30 P19神経細胞分化におけるガングリオシドGT1bとGQ1bの局在について**
小山内 たか¹、小谷 政春²
都臨床研・¹生命情報、²腫瘍免疫
- P1-31 マウスP19細胞の神経分化における新規転写因子Eosの発現**
清澤 秀孔、横屋 幸彦、森 徹自、本間 豊、金沢 賢也、二階堂 琢也、武田 順子、
竹内 真由美、和中 明生
福島県立医科大学 生体情報伝達研究所 細胞科学研究部門
- P1-32 ゼブラフィッシュ新規Ikarosファミリー遺伝子の単離**
横屋 幸彦、清澤 秀孔、森 徹自、本間 豊、金沢 賢也、二階堂 琢也、武田 順子、
竹内 真由美、和中 明生
福島県立医科大学 生体情報伝達研究所 細胞科学研究部門
- P1-33 ヒトNeuroD-related factor (NDRF) のプロモーター領域の同定と解析**
北村 健、宮地 隆史、川上 秀史、中村 重信
広島大学医学部内科学第三
- P1-34 成熟ラットの脳に多く発現される新規遺伝子Bdm 1 の機能解析**
大橋 隆、山内 康熙、大木 武、中田 規之、竹田 二美代、本郷 茂樹、竹田 稔
昭和大学医学部生化学

一般演題（ポスター）

- P1-35 **Necdin変異マウスを用いたゲノムインプリンティングの解析**
 中田 祐二^{1,2}、植月 太一¹、小林 正克¹、原 とも子¹、吉川 和明¹
¹大阪大・蛋白研・機能制御部門、²日本学術振興会特別研究員
- P1-36 **ニューロン増殖抑制因子necdinと核マトリックス蛋白質hnRNP-Uの相互作用**
 谷浦 秀夫、浅野 徹、松本 国治、吉川 和明
 大阪大学蛋白質研究所機能制御部門
- P1-37 **サブプレートニューロンに対するモノクローナル抗体4E1の作製—免疫組織化学的検討—**
 韓 春錫、石井 加代子、植村 慶一
 慶応義塾大医学部生理学教室
- P1-38 **中枢神経系に高発現するDNA組み換え遺伝子recA様新規遺伝子(MmTRAD) alternative transcriptsの解析**
 川端 昌弘、佐伯 清美
 岡山大学医学部薬理学教室
- P1-39 **胎生期マウス脳から単離した未知遺伝子,O-833,の解析**
 小野田 学時^{1,2}、本田 岳夫¹、佐藤 博²、桑野 良三¹
¹新潟大・遺伝子実験施設、²同・医病・薬剤
- P1-40 **プロテアーゼの内因性インヒビターによるグリア細胞の分化誘導機構**
 岩崎 靖乃、熊田 竜郎、中田 智絵、中平 英子、長谷川 明子、馬場 広子、池中 一裕
 岡崎国立共同研究機構・生理学研究所
- P1-41 **高力価レトロウイルスを用いた海馬錐体細胞内へのIn vivo 遺伝子導入の試み**
 松川 則之¹、池中 一裕²、河野 真子²、湯浅 浩之¹、小鹿 幸生¹
¹名古屋市大第二内科、²国立共同研・生理研・神経情報

一般演題 (ポスター)

P1-42 ヒト羊膜細胞における神経幹細胞マーカー遺伝子の発現

稲永 由紀子¹、児矢野 聡¹、内田 彩子¹、堀越 嗣博¹、中福 雅人²、岡野 栄之³、桜川 宣男¹

¹国立精神・神経センター神経研究所、²東京大学医学部神経生物、³大阪大学医学部神経機能解剖

P1-43 脳の層構造構築に寄与するリーリンに関連した新規分子mRE-1の単離とその解析

星野 潤^{1,2}、仲嶋 一範³、田畑 秀典¹、御子柴 克彦^{1,2}

¹理化学研究所脳科学総合研究センター発生神経生物研究チーム、²東京大学医科学研究所化学研究部、³東京慈恵会医科大学DNA医学研究所分子神経生物学研究部門

P1-44 プロテオーム的な手法によるラット小脳形成期の解析

田岡 万悟、若宮 昭子、磯辺 俊明

東京都立大学大学院理学研究科化学専攻

アポトーシス

P1-45 ラット大脳皮質培養細胞におけるエタノールによる細胞毒性について

高寺 恒雄、松田 育美、坂本 ゆかり、大屋敷 孝雄

北陸大・薬・臨床化学

P1-46 低濃度NOによる細胞選択的毒性

湯山 耕平¹、山本 秀子²、中村 和弘¹、加藤 武¹、山国 徹³、宋 時榮³、山本 敏文¹

¹横浜市大院総合理学、²東京都精神医学総合研究所精神薬理、³三菱化学生命研

P1-47 新規アポトーシス調節タンパク質のクローニングとその機能解析

米田 託成^{1,2}、今泉 和則^{1,2,3}、由井 大錦^{1,2}、遠山 正彌^{1,2}

¹大阪大学・医・機能形態、²CREST・JST、³田辺製薬(株)・創薬研

一般演題（ポスター）

- P1-48 培養ミクログリアのアポトーシス制御機構-CキナーゼとAキナーゼの役割-**
 宮崎 博文¹、尾形 直則²、Qiu Sheng Si³、中村 洋一³、片岡 喜由³
¹愛媛大学医学部麻酔蘇生学、²同整形外科、³同第一生理学
- P1-49 ラット大脳皮質神経細胞に対する粘菌分化誘導因子（DIF）の効果**
 管野 敏夫^{1,4}、久保 原禪²、黒見 担³、後藤 文夫⁴、高田 邦昭¹、林 謙介¹
¹群馬大学生体調節研究所細胞構造、²分子調節、³医学部行動生理、⁴麻酔科蘇生科
- P1-50 ブレフェルジンによって誘導される神経細胞死における caspase-3 の迅速な活性化**
 中村 祥子、小池 達郎
 北海道大学大学院理学研究科行動知能学講座
- P1-51 ヌクレオチド除去修復機構関連遺伝子(XPA, CSB)欠損マウスにおけるDNA傷害に伴う中枢ニューロンのアポトーシス**
 安達 直樹¹、村井 真知子¹、榎戸 靖¹、吉野 雅文²、中津 可道²、田中 亀代次²、
 Gijsbertus T.J.van der Horst³、Jan.H.Hoeijimaker³、畠中 寛¹
¹大阪大学蛋白研、²大阪大学細生工セ、³Erasumus University Rotterdam
- P1-52 中枢ニューロンのアポトーシスにおけるシスタチンCの役割**
 西山 啓次、西尾 チカ、山田 雅司、畠中 寛
 大阪大学蛋白研・生合成
- P1-53 ラット脳に強く発現するSNF1 family, SNRKの栄養的・環境的ストレスに対する酵素活性の変動**
 小西 明雄¹、吉田 聖美²、西尾 チカ¹、山田 雅司¹、畠中 寛¹
¹大阪大学・蛋白質研究所・生合成研究部門、²国立長寿医療研究センター・老年病研究部

一般演題（ポスター）

P1-54 老化に伴い変化する脊髄糖タンパク質の解析

佐藤 雄治¹、中野 泰子²、木幡 陽¹、富田 基郎²、遠藤 玉夫¹

¹都老人研、²昭和大・薬

P1-55 加齢による脳内metallothionein-III mRNA発現の変化

宮崎 育子¹、浅沼 幹人¹、十川 千春²、田中 健一¹、東 洋一郎¹、小川 紀雄¹

¹岡山大医・分子細胞研・神経情報学、²岡山大歯・歯科薬理学

P1-56 B型 monoamine oxidase (MAO-B) 阻害剤の慢性投与による老齢マウスの寿命延長作用に対するフリーラジカルの関与について

江頭 亨、高山 房子、山中 康光

大分医科大学薬理学教室

精神疾患、薬物依存

P1-57 ラット前頭前野皮質におけるphencyclidine誘発性ドーパミン遊離に対する抗精神病薬の影響

黒木 俊秀、川原 健、米澤 裕次、田代 信維

九州大学大学院医学系研究科精神病態医学

P1-58 Phencyclidine連続投与によるラット脳内神経栄養因子の変化

高橋 誠¹、豊岡 和彦^{2,3}、染矢 俊幸²、那波 宏之³

¹国立療養所厚潟病院精神科、²新潟大学医学部精神科、³新潟大学脳研究所分子神経生物学分野

P1-59 慢性リチウム投与によるラット海馬グルコルチコイド受容体mRNAの増加

仙波 純一^{1,2}、渡辺 秀栄¹、須原 哲也^{2,3}、赤沼 のぞみ⁴

¹放送大学・教養学部、²科学技術振興事業団・戦略的基礎研究、

³放射線医学総合研究所・高度診断機能研究ステーション、⁴東京医科歯科大学神経精神医学教室

一般演題（ポスター）

- P1-60 慢性リチウム処置のラット海馬スライスにおけるノルアドレナリン刺激性細胞内カルシウム反応に対する抑制効果
岡本 泰昌¹、加賀谷 有行¹、日域 広昭¹、田村 達辞¹、福本 拓治¹、竹林 実¹、前正 秀宣¹、西田 朗²、堀口 淳¹、山脇 成人¹
¹広島大学医学部神経精神医学講座、²国立呉病院臨床研究部
- P1-61 フェンサイクリジンによる最初期遺伝子Arcの発現に対する非定型抗精神病薬の影響
中原 辰雄¹、黒木 俊秀²、本藤 久雄³、堤 哲之³、橋本 喜次郎³、本村 啓介³、植木 裕司³、平野 誠³、内村 英幸³
¹九州大学理学研究科、²佐賀医科大学精神医学、³国立肥前療養所情動行動障害センター
- P1-62 5-HT_{1A} 受容体を介したストレス適応機構に視床下部・下垂体・副腎皮質系が関与する
辻 稔、武田 弘志、松宮 輝彦
東京医科大学薬理学教室
- P1-63 モルヒネ依存・耐性ラットの中枢神経 Neuropeptide Y遺伝子発現の増加
高木 正仁、許 波、弦巻 立、豊里 晃、樋口 宗史
新潟大・医・薬理
- P1-64 GABA_A 受容体 α 4サブユニット遺伝子新規多型とアルコール依存症との関連研究
中村 雅之¹、上野 修一¹、三神 正昭¹、田邊 敬貴¹、有波 忠雄²、石黒 浩毅²、小宮山 徳太郎³、三ツ汐 洋³、佐野 輝¹
¹愛媛大学医学部神経精神医学、²筑波大学基礎医学系遺伝医学、³国立精神神経センター武蔵病院
- P1-65 ドーパミントランスポーター遺伝子の5'領域多型についての検討
上野 修一¹、中村 雅之¹、三神 正昭¹、田邊 敬貴¹、石黒 浩毅²、有波 忠雄²、小宮山 徳太郎³、三ツ汐 洋³、佐野 輝¹
¹愛媛大学医学部神経精神医学、²筑波大学基礎医学系遺伝医学、³国立精神神経センター武蔵病院

一般演題 (ポスター)

痴 呆

P1-66 CHO細胞で産生させたAPPの糖鎖の解析

佐藤 雄治¹、Chen Liu²、Boguslaw S. Wojczyk²、木幡 陽¹、Steven L. Spitalnik²、遠藤 玉夫¹
¹都老人研、²ペンシルベニア大

P1-67 NT2ニューロンのアポトーシスに伴うAPPの蓄積

西村 伊三男^{1,2}、植月 太一¹、原 とも子¹、吉川 和明¹
¹大阪大・蛋白研・機能制御、²学振特別研究員

P1-68 カベオラとは異なるコレステロール高含有ドメインにおけるアミロイド前駆体蛋白

林 秀樹、水野 哲也、道川 誠、柳澤 勝彦
国立長寿医療研究センター痴呆疾患研究部

P1-69 アルツハイマー病脳におけるアポトーシス調節タンパク質の変動；加齢による変動との相関

藤本 貞毅¹、谷野 浩子¹、守屋 友加¹、下濱 俊²
¹京都薬科大学衛生化学教室、²京都大学医学部神経内科学教室

P1-70 合成amyloid β -蛋白を用いたラットグリア細胞培養系における老人斑モデル

磯部 一郎、柳澤 勝彦、道川 誠
国立長寿医療研究センター、痴呆疾患研究部

P1-71 アポリポ蛋白Eのアイソフォーム特異的作用の検討：培養神経細胞及びアストロサイトにおけるコレステロールeffluxに及ぼす影響

道川 誠、范 企文、磯部 一郎、柳澤 勝彦
国立長寿医療研究センター痴呆疾患研究部

一般演題（ポスター）

- P1-72 家族性アルツハイマー病原因遺伝子プレセニリン1 変異体の機能解析**
 片山 泰一^{1,2,3}、今泉 和則^{1,2,3}、佐藤 直也^{1,2,3}、三好 耕^{1,3}、遠山 正彌^{1,3}
¹大阪大・医・機能形態学、²田辺製薬・創薬研究所、³CREST, JST
- P1-73 孤発性アルツハイマー病とスプライシング異常**
 佐藤 直也^{1,2,3}、人見 淳一^{1,3}、今泉 和則^{1,2,3}、遠山 正彌^{1,3}
¹大阪大・医・機能形態学、²田辺製薬・創薬研究所、³CREST, JST
- P1-74 中枢神経系細胞における2種のNPRAP/ δ -cateninアイソフォームの発現解析**
 川村 勇樹、范 企文、林 秀樹、道川 誠、柳澤 勝彦、駒野 宏人
 国立長寿医療研究センター 痴呆疾患研究部
- P1-75 アルツハイマー・ β アミロイド蛋白質による細胞内カルシウム流入の細胞による差異**
 川原 正博¹、加藤 みどり^{2,3}、村本 和世¹、黒田 洋一郎²
 東京都神経科学総合研究所 ¹神経生化学、²解剖発生、³科学技術振興事業団
- P1-76 アルツハイマー病原因遺伝子産物プレセニリンとアミロイド前駆体タンパク質のC末断片の関係について**
 亀谷 富由樹¹、田中 喜久子¹、宇佐美 美穂子¹、丸山 敬¹、森 啓²
¹東京都精神医学総合研究所・分子生物、²大阪市立大学医学部老年医学
- P1-77 エストロゲン受容体 α 遺伝子多型の転写活性およびアルツハイマー病への関与の検討**
 丸山 博文¹、田路 浩正¹、川上 秀史¹、中村 重信²、佐々木 健³、新井 平伊³、保田 稔⁴、
 田中 千賀子¹、Charles Harrington⁵
¹広島大学医学部内科学第三、²きのこエスポアル病院、³順天堂大精神、⁴兵庫脳研、⁵Aberdeen大
- P1-78 アルツハイマー病の危険因子としてのアンギオテンシンⅠ変換酵素遺伝子多型**
 宮武 史子¹、会津 善紀¹、胡 建国¹、中川 八郎³、中村 重信²、玉岡 晃³、高橋 良輔⁴、
 浦上 克哉⁵、東海林 幹夫⁶
¹株式会社ビー・エム・エル 研究開発本部、²広島大学第3内科、³筑波大学神経内科、
⁴東京都神経研神経学部門、⁵鳥取大学脳神経内科、⁶群馬大学神経内科

一般演題（ポスター）

ポスター会場
9月17日(金)

貼付	9:00-10:00
掲示	10:00-15:00
討論	12:00-13:00
撤去	15:00-16:00

伝達物質

- P2-01 Group II代謝調節型glutamate受容体を介する中枢acetylcholine遊離機構と N-anisoyl-GABAによる修飾作用
白根 正智、中村 和雄
日本ロシュ・研究所・CNSラボ
- P2-02 ドパミンの核内転写因子への直接作用に関する検討
浅沼 幹人、宮崎 育子、田中 健一、小川 紀雄
岡山大学医学部神経情報学部門
- P2-03 ドーパミンによるヒトチロシン水酸化酵素1型活性の抑制はN端の特異的部位によって制御される
中島 昭¹、森 啓至¹、金子 葉子¹、鈴木 崇弘²、永津 俊治²、太田 明¹
藤田保健衛生大・¹医・第1生理、²総医研・分子遺伝
- P2-04 内因性アルデヒド化合物によるPC12細胞からのドパミン遊離促進機構の解析
橋本 恒一、矢部 千尋
京都府立医科大学 薬理学教室
- P2-05 CALI法の開口分泌機構研究への応用
今泉 美佳¹、岸本 正巳¹、川ノ口 潤、笹川 展幸、西木 禎一²、高橋 正身²、熊倉 鴻之助¹
¹上智大学・生命科学研究所、²三菱化学・生命科学研究所

一般演題（ポスター）

- P2-06 Catecholamine分泌能の低下したPC12細胞株の解析
笠井 陽子、森島 美絵子、桑原 玲子、高橋 正身
三菱化学生命科学研究所
- P2-07 PC12細胞におけるコンプレキシン(Complexin)の開解放出制御機構の解明
板倉 誠^{1,2}、高橋 聖一³、高橋 正身¹
¹三菱化学生命研、²東工大生命理工、³高知医大第一生理
- P2-08 ラット脊髄後根神経節培養細胞におけるIL-1 β 誘発性サブスタンスP遊離について
森岡 徳光、武田 和美、熊谷 圭、秀 和泉、井上 敦子、仲田 義啓
広島大学医学部総合薬学科薬効解析科学
- P2-09 豚下垂体から合成ペプチドSucFGRSED-Dnsプロセシング酵素の単離と構造解析
加藤 武¹、山本 賢¹、平野 久²、矢嶋 隆一³、知久馬 敏幸⁴
¹横浜市大・院・総合理学、²木原生研、³特殊免疫研、⁴昭和薬科大・薬品分析

情報伝達

- P2-10 光感応基を有する新規リジン誘導体を用いたケージドペプチドの合成法の開発とCaMキナーゼII特異的阻害ペプチドAIPへの応用
茂里 康¹、達 吉郎¹、石田敦彦²、亀下 勇²、藤澤 仁²、湯元 昇¹
¹通商産業省大阪工業技術研究所、²旭川医科大学・一生化
- P2-11 ラットC6BU-1細胞におけるDehydroepiandrosteroneのcyclic GMP産生に対する効果
竹林 実、加賀谷 有行、稲垣 正俊、三好 出、片桐 秀晃、岡本 泰昌、堀口 淳、山脇 成人
広島大学医学部神経精神医学講座

一般演題 (ポスター)

- P2-12 Dual leucine zipper bearing kinase (DLK)欠損マウスにおける海馬体・脊髄白質の発達不全メカニズム
湯川 和典¹、白澤 信行²、鶴尾 吉宏²、辻 繁勝¹
和歌山県立医科大学 ¹第二生理学、²第一解剖学
- P2-13 PHAPI kinaseとPHAP Iの細胞内リン酸化
下島 桐、萩原 民雄、山科 聡子、今川 浩之、竹田 二美代、竹田 稔
昭和大・医・生化
- P2-14 海馬ニューロンにおけるestrogen-nicotine のクロストーク
鬼頭 昭三、新郷 明子
兵庫大学附属研究所
- P2-15 グリア由来培養細胞におけるトロンビン刺激性細胞内カルシウム動員系に対するリチウムとプラスミンの影響
加賀谷 有行¹、岡田 亜希子²、田原 康孝¹、稲垣 正俊¹、三好 出¹、岡本 泰昌¹、竹林 実¹、堀口 淳¹、仲田 義啓²、山脇 成人¹
¹広島大学医学部神経精神医学講座、²広島大学医学部薬効解析科学
- P2-16 小胞体ストレスセンサーのクローニング
三好 耕^{1,3}、今泉 和則^{1,2,3}、片山 泰一^{1,2,3}、佐藤 直也^{1,2,3}、人見 淳一^{1,3}、米田 託成^{1,3}、遠山 正弥^{1,3}
¹大阪大学大学院医学系研究科機能形態学講座A2、²田辺製薬(株)創薬研、³CREST JST
- P2-17 Cdk5欠損マウス及びCdk5活性化サブユニットp35欠損マウスの生化学的検討
大島 登志男^{1,2}、Veeranna³、H. C. Pant³、御子柴 克彦¹、A. B. Kurkarni²
¹理化学研究所・脳科学総合研究センター・発生神経生物研究チーム、²GTF, NICDR、³LN, NINDS
- P2-18 PC12D細胞におけるM1ムスカリン性アセチルコリン受容体の刺激による前初期遺伝子*zif268*の発現誘導: 低分子量G蛋白質Rhoの役割
平林 敏行、David Saffen
東京大学医学部神経生化学教室

一般演題（ポスター）

- P2-19 PC12細胞におけるMAPキナーゼ経路とプロテインキナーゼA経路のクロストークとニコチン性アセチルコリン受容体の発現調節について**
 中山 均¹、畠中 寛²
¹奈良医大・薬理、²大阪大・蛋白研
- P2-20 ラット脳におけるアデニル酸キナーゼアイソザイムの分布**
 井上 幸江¹、山田 康枝²、三浦 公志郎¹、河田 啓介³、松尾 義久³、篠田 晃³、中澤 淳¹
¹山口大学医学部生化学第二、²同・薬理学、³同・解剖学第二
- P2-21 CaMキナーゼIVによるカルモデュリンのリン酸化**
 石田 敦彦、亀下 勇、奥野 幸子、木谷 隆子、藤澤 仁
 旭川医科大学第一生化学教室
- P2-22 PC12細胞および培養小脳顆粒細胞におけるラプフィリン-3Aのリン酸化の解析**
 古賀 毅¹、板倉 誠^{2,3}、片岡 正和²、大西 浩史²、関口 真理子²、山森 早織²、佐藤 一紀²、高橋 正身^{1,2}
¹東大院・総合文化、²三菱化学生命研、³東工大・生命理工
- P2-23 ヒト羊膜細胞における神経誘導因子の発現とアクチビンA処理によるnoggin誘導**
 児矢野 聡、桜川 宣男
 国立精神・神経センター神経研究所

栄養因子、再生

- P2-24 舌下神経切断により著明な発現上昇の見られる、Rhoファミリー蛋白TC10の神経系細胞における細胞骨格制御作用**
 田辺 勝久^{1,2,3,5}、立花 太郎⁴、山下 俊英²、蔡 榮浩^{2,3,5}、米田 悦啓⁴、遠山 正彌^{2,5}、越智 隆弘⁵、木山 博資¹
¹旭川医大・第一解剖、²大阪大院・医・機能形態学解剖学第二、³大阪大院・医・器官制御外科学、⁴大阪大院・医・機能形態学解剖学第二、⁵CREST, JST

一般演題（ポスター）

- P2-25 Mevalonate pathwayの酵素であるIPP isomeraseは神経切断後および生直後大脳皮質の神経細胞で発現が上昇する**
森原 剛史^{1,2,3}、今泉 和則^{1,3,4}、米田 託成^{1,3}、田辺 勝久^{1,3}、武田 雅俊²、遠山 正彌^{1,3}
¹大阪大学第二解剖、²精神医学、³CREST・JST、⁴田辺製薬（株）創薬研
- P2-26 成体ラット顔面神経核運動ニューロン損傷に対するGDNF組換えアデノウイルス・ベクターの保護効果**
坂本 剛^{1,2,3}、渡部 和彦¹、大橋 十也⁴、川添 陽子¹、小柳 清光¹、井上 聖啓²、細谷 龍男³、衛藤 義勝⁴
¹東京都神経科学総合研究所神経病理、東京慈恵会医科大学・²神経内科、³内科第2、⁴小児科/DNA医学研究所遺伝子治療
- P2-27 Haloperidol投与ラットにおける神経栄養因子の脳内動態**
豊岡 和彦^{1,2}、高橋 誠²、二村 隆史¹、染矢 俊幸²、那波 宏之¹
¹新潟大学脳研究所分子神経生物学分野、²新潟大学精神医学教室
- P2-28 BDNFによる大脳皮質GABAergic神経細胞のAMPA感受性の亢進**
永野 忠聖、難波 寿明、大津 洋、武井 延之、那波 宏之
新潟大・脳研・分子神経生物
- P2-29 BDNF遺伝子発現へのカルシウム/カルモデュリン依存性プロテインキナーゼIIの関与**
竹内 有輔^{1,2}、山本 秀幸¹、宮川 太平²、宮本 英七¹
熊本大・医・¹第一薬理、²神経精神
- P2-30 脳由来神経栄養因子（BDNF）の糖代謝制御における神経系の関与**
野々村 健¹、小野 道子¹、土田 敦之¹、山中 貢¹、板倉 康史¹、中川 勉¹、泰地 睦夫¹、野口 浩²
¹住友製薬（株）総合研究センター、²同・臨床開発センター
- P2-31 糖尿病によって誘発される中枢神経機能障害に対する4-メチルカテコールの保護効果**
鈴木 宣雄、新田 淳美、古川 昭栄
岐阜薬科大学分子生物学教室

一般演題（ポスター）

- P2-32 **歯周組織由来培養細胞における神経栄養因子とその受容体のmRNAの発現**
 篠原 弘明、吉野 宏、藤岡 大助、栗原 英見
 広島大学歯学部歯科保存学第二講座
- P2-33 **上頸神経節細胞におけるNT3受容体-GDNF受容体の発現調節と相互作用**
 小林 三和子、松岡 一郎
 北海道大学大学院・薬学研究科
- P2-34 **bFGFの脳室内投与による細胞分化異常とその解析**
 大宮 誠、新田 淳美、古川 昭栄
 岐阜薬科大学・分子生物学教室
- P2-35 **培養マウス小脳顆粒細胞の生存と生存支持因子の性質**
 藤川 直人、小倉 明彦
 大阪大・院理・生物
- P2-36 **老化促進モデルマウス（SAMP8）の海馬における海馬由来神経刺激因子（hippocampal cholinergic neurostimulating peptide:HCNP）の加齢変化（免疫組織学的検討）**
 湯浅 浩之、松川 則之、片田 栄一、小鹿 幸生
 名古屋市立大学医学部第二内科学
- P2-37 **ACTH1-24がアストロサイトの神経栄養因子遺伝子発現に与える影響**
 小久保 稔^{1,2}、浅井 清文²、青山 峰芳¹、森川 将行²、河合 洋子²、和田 義郎¹、加藤 泰治²
 名古屋市立大学医学部・¹小児科、²分子医学研究所生体制御部門
- P2-38 **海馬ニューロンにおけるIGF1 mRNA発現とestrogen**
 新郷 明子、鬼頭 昭三、櫻井 香織
 兵庫大学附属研究所

一般演題 (ポスター)**P2-39 Troglitazoneの運動神経細胞に対する神経栄養因子活性**

西嶋 千晶、木元 克輔、荒川 義弘
東京大学医学部附属病院分院薬剤部

P2-40 ミクログリアの活性化とプロテインキナーゼC

中嶋 一行^{1,2}、本田 静世²、Lopez-Redondo Fernando²、中村 泰子²、栗原 正¹、高坂 新一²
¹創価大学生命科学研究所神経化学、²国立精神・神経センター神経研究所代謝

リズム、記憶**P2-41 周期変動性キナーゼ(Pfk)によるBMAL1/CLOCK転写制御系のリン酸化**

田丸 輝也、高松 研
東邦大・医・第2生理

P2-42 マウスBMAL1遺伝子の3種のスプライスバリエントとゲノム構造の解析

余 旺節¹、池田 正明¹、安倍 博²、本間 さと²、海老澤 尚³、山内 俊雄³、本間 研一²、
野村 正彦¹
¹埼玉医大・第一生理、²北海道大・医・統合生理、³埼玉医大・精神科

P2-43 ラット海馬スライスにおける化学的長期増強による脂肪酸及びAcyl-CoAの遊離

張 勤増、酒井 久美子、吉田 敏
大分医大実験実習機器センター

P2-44 海馬CA1錐体細胞の活動とhippocampal cholinergic neurostimulating peptide (HCNP) 前駆蛋白 mRNAの発現

岩瀬 環¹、松川 則之¹、西野 仁雄¹、岡田 秀親¹、山本 孝之²、小鹿 幸生¹
¹名古屋市立大学・医学部、²福祉村病院・長寿医学研究所

一般演題（ポスター）

- P2-45 マウスの動機づけにおよぼすhaloperidolの効果：連続強化スケジュールと摂食量による検討
堀 耕治、野村 正彦
埼玉医科大学第一生理

疾患モデル

- P2-46 $A\beta$ の脳室内注入によって誘発される脳機能傷害：行動学的、神経化学的および組織学的解析
中村 静雄、村山 宣人、案浦 洋一、大野 知親
サントリー生物医学研究所
- P2-47 子宮内胎児発育不全と中枢神経障害
田口 雅之¹、小嶋 久子²、斎藤 克¹、斎藤 真希¹、栗原 正³、西島 正博¹、玉井 洋一²
北里大・医・¹産婦人科・²生化学、³創価大・生命研
- P2-48 Sandhoff病モデルマウス由来培養神経細胞ならびにシュワン細胞の形態・機能解析
三五 一憲¹、渡部 和彦²、山中 正二³
東京都神経科学総合研究所 ¹解剖発生、²神経病理、³横浜市立大学医学部第二病理
- P2-49 胎児期アルコール被曝ラットの中枢ミエリンタンパクへの影響と学習行動について
小嶋 久子¹、堀 耕治²、栗原 正³、白鷹 増男⁴、中村 和生¹、川島 麗¹、田口 雅之⁵、
野村 正彦²、玉井 洋一¹
北里大・医・¹生化学、²産婦人科、³医療衛生・医情報、⁴埼玉医大・生理学、⁵創価大・生命研
- P2-50 A群色素性乾皮症原因遺伝子およびB群コケイン症候群原因遺伝子ダブルノックアウトマウスにみられる小脳の発達異常
村井 真知子¹、稲村 直子¹、安達 直樹¹、榎戸 靖¹、吉野 雅文²、中津 可道²、
Gijsbertus T.J.van der Horst³、Jan.H.J.Hoeijmakers³、田中 亀代次²、畠中 寛¹
¹大阪大学・蛋白研、²大阪大学・細生工センター、³Erasmus University

一般演題 (ポスター)**変性疾患**

- P2-51 **ドーパミン神経毒MPP⁺によるアポトーシス誘導の機構**
梅沢 倫子、村山 俊彦、野村 靖幸
北海道大院・薬・薬理
- P2-52 **酸化ストレスと内在性脳内アミン1BnTIQの相乗効果による神経毒性の検討**
本田 真知子、古武 弥一郎、太田 茂
広島大学医学部総合薬学科
- P2-53 **新規パーキンソン病発症物質候補の毒性評価**
杉谷 誠一郎、太田 茂
広島大学医学部総合薬学科
- P2-54 **MPTPマウスにおけるGDNF受容体Retのdown-regulation**
平田 洋子、足立 香代、村口 佐知子、木内 一壽
理化学研究所 バイオミメティックコントロール研究センター 運動遺伝子研究チーム
- P2-55 **ヒトNurr1の遺伝子構造**
鳥居 剛、瓦井 俊孝、川上 秀史、中村 重信
広島大学医学部内科学第三
- P2-56 **Niemann-Pick病C型モデルマウス(spm)由来培養シュワン細胞株の樹立**
渡部 和彦¹、坂本 剛^{1,2}、井田 博幸³、上原 けい子³、衛藤 義勝³、大野 耕策⁴
¹東京都神経科学総合研究所神経病理、²東京慈恵会医科大学神経内科、
³東京慈恵会医科大学小児科、⁴鳥取大学医学部神経生物

一般演題（ポスター）

P2-57 筋萎縮性側索硬化症モデルマウス大脳皮質および脊髄組織内ミトコンドリア複合酵素ⅠとⅣ活性の発育に伴う変動

柴山 健三¹、藤田 公和¹、芳本 信子²、小川 和人¹、永田 豊¹、宮地 栄一¹

¹藤田保健衛生大学・医学部・生理、²名古屋文理短大

P2-58 Iminodipropionitrileによる脊髄前角細胞NOS活性変化に対するaniracetamの効果

鎗木 真理子、駒井 清暢

金沢大学医学部神経内科

P2-59 Human NeuroD/BETA2/BHF1遺伝子プロモーターの解析

宮地 隆史、川上 秀史、北村 健、丸山 博文、中村 重信

広島大学医学部内科学第三

虚 血

P2-60 脳虚血後の海馬における前シナプス蛋白質、NACP/ α -synuclein, SNAP-25およびsynaptophysinの変化

石丸 裕久¹、上田 健治²、高橋 章¹、Fiorella Casamenti³、Giancarlo Pepeu³、丸山 悠司¹

¹群馬大学医学部神経精神薬理ツムラ、²東京都精神医学総合研究所神経化学、

³フィレンツェ大学医学部臨床薬理

P2-61 糖尿病ラットにおける一過性前脳虚血後の大脳皮質の進行性萎縮

近藤 文雄、小川 紀雄

岡山大学医学部分子細胞研究施設神経情報学部門

P2-62 グルタミン酸取込み阻害剤は、ラジカル生成促進とグルタチオン枯渇によって培養海馬神経細胞に対する興奮毒性を増強する

水見 敏行、池田 正行、室田 誠逸

東京医科歯科大学 分子細胞機能制御学

一般演題（ポスター）

- P2-63 ラット大脳皮質スライスでの低酸素・無グルコース/再酸素化による組織障害に対するNS-7の保護作用：ナトリウムおよびカルシウムチャネル遮断作用を介した一酸化窒素合成酵素活性化抑制作用の関与について
岡 美智子、伊藤 善規、鵜飼 洋司郎
日本新薬・創薬研究所
- P2-64 慢性脳血流低下動物における細胞内情報伝達系の変化；オートラジオグラフィーを用いた検討
車谷 隆宏、工藤 喬、福所 英里子、中村 裕、谷向 仁、橋本 亮太、武田 雅俊
大阪大・神経機能医学講座・精神医学
- P2-65 Differential Display 法における単離配列解析の改良
東田 道久
富山医科薬科大学・和漢薬研究所・生物試験
- P2-66 局所脳虚血・再灌流時の局所脳血流量と小胞体カルシウムイオン取り込み能の検討
傳法 倫久¹、福内 靖男¹、田中 耕太郎¹、野川 茂¹、鈴木 重明¹、二木 啓²
¹慶應義塾大学医学部神経内科、²理化学研究所

炎症、てんかん

- P2-67 自己免疫性ニューロパチーにおける免疫吸着療法の効果：抗糖脂質抗体の変動と臨床予後
池田 順子¹、郡山 達男¹、小塚 和子¹、越智 一秀¹、原田 暁²、中村 重信¹
¹広島大学医学部内科学第三、²県立広島病院神経内科
- P2-68 ラット急性脊髄損傷モデルに対する性ホルモン投与による神経変性抑制効果
小川 和人¹、藤田 公和¹、山内 理充²、安藤 正人²、永田 豊¹、宮地 栄一¹
¹藤田保健衛生大学医学部生理学教室、²愛知学泉大学

一般演題（ポスター）

- P2-69 **グリオーシス特異的遺伝子OASISのヒトホモログの同定**
 森 徹自、竹内 真由美、二階堂 琢也、横屋 幸彦、清澤 秀孔、和中 明生
 福島県立医科大学 生体情報伝達研究所 細胞科学研究部門
- P2-70 **単純ヘルペスウイルスを用いたTIMP-2発現defective virus による悪性脳腫瘍に対する抗腫瘍効果の検討**
 星 道生^{1,2}、矢崎 貴仁^{1,2}、河瀬 斌²、植村 慶一¹
 慶應義塾大学医学部 ¹生理学、²脳神経外科
- P2-71 **抗てんかん薬ゾニザミドの抗酸化能力のin vivo評価**
 徳丸 潤¹、植田 勇人¹、横山 秀克²、中島 暉³、土井 拓¹、大矢 博昭²、鎌田 仁²
¹宮崎医大精神科、²山形生物ラジカル研、³宮崎医大化
- P2-72 **外傷性てんかんモデルにおけるてんかん原性焦点獲得のメカニズム**
 植田 勇人¹、徳丸 潤¹、横山 秀克²、中島 暉³、土井 拓¹、大矢 博昭²、鎌田 仁²
¹宮崎医大精神科、²山形生物ラジカル研、³宮崎医大化
- P2-73 **ペンチレンテトラゾールによるキンドリング痙攣とヒスタミン神経系**
 李 争艶^{1,2}、櫻井 映子¹、Jalal Izadi Mobarakeh¹、飯沼 一字²、渡辺 武³、渡邊 建彦¹、
 谷内 一彦¹
¹東北大学医学系院・薬理、²東北大学医学系院小児、³九州大・生体防御医学研
- P2-74 **シュワン細胞における抗酸菌感染による神経栄養因子・サイトカインの発現**
 遠藤 真澄、野間口 博子、小林 和夫
 国立感染症研究所ハンセン病研究センター

ランチョン・イブニングセミナー**ランチョンセミナー
イブニングセミナー****9月16日(木)****ランチョンセミナー1**

12:00-13:00 (C会場:ダリア2)

in vivo ^{13}C -磁気共鳴スペクトロスコピー(MRS)による脳代謝計測

岡本 和也 (株)東芝 医用システム社 医用機器・システム開発センター)

ランチョンセミナー2

12:00-13:00 (D会場:コスモス1)

脳神経領域におけるPETの応用

和田 康弘 (シーメンス旭メディテック株式会社マーケティング本部)

イブニングセミナー

18:00-19:00 (C会場:ダリア2)

司会:永津 俊治 (藤田保健衛生大学総合医科学研究所)

パーキンソン病の原因と治療をめぐる最近の話題

水野 美邦 (順天堂大学医学部脳神経内科)

9月17日(金)**ランチョンセミナー3**

12:00-13:00 (C会場:ダリア2)

司会:祖父江 元 (名古屋大学医学部神経内科)

講演1. 電気生理学的にみたCIDP

馬場 正之 (弘前大学医学部脳研究施設臨床神経部門)

講演2. CIDPとガンマグロブリン療法

梶 龍児 (京都大学医学部神経内科)

催し物

ビアパーティー

日 時：9月16日（木）19：00～

場 所：コスモス2（E 会場）

参加費：無料

大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

学会掲示板

文部省科学研究費補助金・特定領域研究(B)公開シンポジウム

「グリア細胞による神経伝達調節機構の解明」

Regulation of Neural Transduction by Glial Cells

開催日：平成11年8月27日（金）13:00～17:30

会 場：北海道大学・医学部臨床講堂

（札幌地下鉄南北線北12条駅下車・徒歩10分）

内 容：

13:00-13:10 はじめに 池中一裕（岡崎国立共同研究機構・生理学研究所）

13:10-14:40 セッション I [座長：和田圭司（国立精神・神経センター神経研究所）]

13:10-13:40 「グリア細胞によるイオンチャンネルの発現と局在の調節機構」

池中一裕（岡崎国立共同研究機構・生理学研究所）

13:40-14:10 「グリア細胞機能の可視化解析法とその応用」

工藤佳久（東京薬科大学・生命科学部）

14:10-14:40 「ATP によるミクログリアの機能調節」

高坂新一（国立精神・神経センター神経研究所 代謝研究部）

14:40-15:00 休憩

15:00-16:00 特別講演 [座長：渡辺雅彦（北海道大学・医学部）]

「グリア細胞の形態が考えさせること」

濱 精（岡崎国立共同研究機構・生理学研究所・名誉教授）

16:00-16:20 休憩

16:20-17:20 セッション II [座長：木山博資（旭川医科大学・医学部）]

16:20-16:50 「オリゴデンドロサイトの発生・分化における細胞移動」

小野勝彦（島根医科大学 第2解剖）

16:50-17:20 「神経細胞の生存や機能に対するミクログリアの役割」

澤田誠 (藤田保健衛生大学)

17:20-17:30 総合討論

加藤泰治 (名古屋市立大学・医学部)

参加費：無料

連絡先：生理学研究所・神経情報部門 岩崎靖乃 池中的一裕

TEL:0564-55-7842 E-mail:glia@nips.ac.jp

会場問い合わせ先：北海道大学医学研究科・生体機能構造学講座・渡辺雅彦

TEL:011-706-5032 E-mail:watamasa@med.hokudai.ac.jp

詳細はインターネットホームページアドレス

<http://www.nips.ac.jp/ikenaka/sympo.html> をご覧下さい。 共催：グリアクラブ

第21回 千里ライフサイエンス技術講習会 「蛍光偏光分析技術」

開催日：平成11年9月17日 (金) 13:00~17:00

会 場：千里ライフサイエンスセンタービル 9 階

(地下鉄御堂筋線・千里中央駅北改札口すぐ)

主 催：財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協 賛：宝酒造株式会社千里ライフサイエンスセンター

技術解説：1. 環境ホルモン分析の概要

2. 蛍光偏光度測定について

3. 環境ホルモンのエストロゲンレセプターへの結合試験

4. 種々の混合系試料からの試験サンプル調製

実 習：1. BEACON を用いたエストロゲンレセプター結合試験

2. 結果の解析とデータ処理

講 師：1. 近藤昭宏 (宝酒造株式会社バイオ研究所)

2. 榎 由樹 (同上)

3. 辻本善政 (同上)

定 員：30名 (先着順)

受講料：3000円

申込方法：氏名、勤務先、所属、役職、所在地、〒、電話を明記の上、郵便、ファックス、または E-mail にて下記申込先へ申し込みください。受講料は申込後に大和銀行・本店公務部・普通預金 No.3093240 財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛お振り込みください。なお振込者名の前にG21とご明記下さい。確認次第、領収書兼参加証を送付致します。

申込先：〒565-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2千里ライフサイエンスセンタービル 8 階 (財) 千里ライフサイエンス振興財団 技術講習会係 TEL:06-6873-2001

FAX:06-6873-2002 E-mail: senrilsf@commercecity.or.jp URL:http://www.commercecity.or.jp/senri_lsf

第49回 科学講演会

開催日：平成11年9月22日（水）18:00～20:45

会 場：有楽町朝日ホール（有楽町マリオン11階）
東京都千代田区有楽町2-5-1（JR有楽町駅前）

主 催：東レ科学振興会

後 援：日本動物学会・日本発生生物学会・日本生化学会

テーマ：“よくわかる生命科学の新しい展開”

I. クローン生物と臓器形成の現在

東京大学大学院総合文化研究科教授 浅島 誠

II. 脳と神経の働きに挑む

東京大学医科学研究所教授 御子柴 克彦

理化学研究所脳科学総合研究センター、発生・分化研究グループディレクター

その他：入場無料，予約の必要はありません。

定員638名（当日会場先着順・開場17:30）

ご来聴の方には，後日講演記録を進呈いたします。

お問い合わせ先：〒279 千葉県浦安市美浜1-8-1（東レビル）財団法人 東レ科学振興会
TEL 047-350-6103

第8回 日本バイオイメーシング学会学術集会

開催日：平成11年10月14日（木）～15日（金）

会 場：球晶産業省工業技術院筑波研究センター共同講堂
（茨城県つくば市梅園1-1-4）

予稿原稿締切：8月31日（火）

討論主題：

生体分子から細胞，臓器，個体までの形態や機能のさまざまな観察方法によるイメージング，新たなイメージング技法の開発，グラフィックスイメージングなど，多岐にわたるバイオイメーシングに関する研究発表を広く募集します。

参加費：一般会員 5000円（非会員 6000円） 学生会員 3000円

WEB サイト：URL:http://www.etl.go.jp/~majima/bioimaging.html

発表申込方法：講演題目，要旨（200字程度），発表者，登壇者，所属を明記して，下記申込先へ郵便，ファックス，ホームページ入力，またはE-mailにて申し込みください。

申込先：〒305-8568 つくば市梅園1-1-4 電子技術総合研究所 超分子部 眞島 利和
TEL:0298-54-5535 FAX:0298-54-5540 E-mail: majima@etl.go.jp

千里ライフサイエンスセミナー
ブレインサイエンスシリーズ 第12回
「神経難病の最前線- 治療と創薬に向けて-」

開催日：平成11年10月15日（金）10:00～17:00

会 場：千里ライフサイエンスセンタービル 5階ライフホール
（大阪府豊中市新千里東町1-4-2）

主 催：財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協 賛：株式会社千里ライフサイエンスセンター

コーディネーター：遠山正彌（大阪大学医学部）

プログラム：

1. 虚血性神経細胞死とその制御機構
大阪大学医学部助教授 玉谷実智夫
2. アルツハイマー病発症機構の分子生物学的解析
- Presenilin 変異体の解析を中心として -
田辺製薬（株）創薬研究所グループリーダー 今泉和則
3. ポリグルタミン病発症の分子機構
大阪バイオサイエンス研究所部長 垣塚 彰
4. 精神分裂病の分子メカニズムを探る
国立精神神経センター神経研究所部長 西川 徹
5. 多発性硬化症とその実験モデルにおける免疫調節細胞
国立精神神経センター神経研究所部長 田平 武
6. 運動ニューロン疾患の病態発現機構と治療への展望
名古屋大学医学部教授 祖父江 元
7. 弧発性および家族性パーキンソン病の発症機構
順天堂大学医学部教授 水野美邦

定 員：200名

受講料：会員（大学、官公庁、賛助会員）6000円 非会員 8000円 学生 3000円

参加申込方法：氏名、勤務先、所属、役職、所在地、電話、Fax 番号を明記の上、郵便、ファックス、または E-mail にて下記申込先へ申し込みください。受講料は申込後に住友銀行千里中央支店・普通預金 No.128278 財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛お振り込みください。なお振込者名の前にB12とご明記下さい。確認次第、領収書兼参加証を送付致します。

申込先：〒565-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2千里ライフサイエンスセンタービル
8階（財）千里ライフサイエンス振興財団 セミナー係 TEL:06-6873-2001
FAX:06-6873-2002 E-mail: senrilsf@commercecitiy.or.jp

第33回 日本てんかん学会

開催日：平成11年10月22日（金）・23日（土）

会 場：仙台国際センター

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山 TEL 022-265-2211

会 長：佐藤光源（東北大学大学院精神神経学分野）

メイン・テーマ：難治てんかんとその治療

参加費：予備登録 9000円 当日参加費 11000円 懇親会費 3000円

大会事務局：〒980-8574 仙台市青葉区星稜町1番1号東北大学大学院精神神経学分野内
第33回日本てんかん学会事務局（仙台）TEL 022-717-7262 FAX 022-717-7266

千里ライフサイエンスシンポジウム 「脳の幹細胞-脳の再生医学への道-」

開催日：平成11年11月16日（火）10:00～17:00

会 場：千里ライフサイエンスセンタービル5階ライフホール
（大阪府豊中市新千里東町1-4-2）

主 催：財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協 賛：株式会社千里ライフサイエンスセンター

コーディネーター：岡野栄之（大阪大学大学院医学系研究科）

プログラム：

1. はじめに 岡野栄之
2. 神経幹細胞の同定とその神経疾患への応用 岡野栄之
3. 成熟動物における神経幹細胞の再生・分化転換と網膜再生-
理化学研究所脳科学総合研究センター チームリーダー 梶原一人
4. 神経幹細胞の発生・分化・再生
東京大学大学院医学系研究科 助教授 中福雅人
5. ラット海馬由来神経系幹細胞の分離・培養と神経分化過程の解析
京都大学大学院医学研究科 助手 高橋 淳
6. 成体幹細胞を用いたドーパミン作動性ニューロン分化機構の解析
協和醗酵工業 東京研究所 研究員 桜田一洋
7. パーキンソン病に対する神経移植再生療法
岡山大学医学部助手 伊達 勲
8. おわりに 岡野栄之

定 員：300名

参加料：（講演要旨集含む）会員（大学，官公庁，賛助会員）6000円 非会員 8000円
学生 3000円

参加申込方法：氏名、勤務先、所属、役職、所在地、〒、電話、Fax 番号を明記の上、郵便、ファックスにて下記申込先へ申し込みください。受講料は申込後に大和銀行千里中央支店・普通預金 No.4601085 財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛お振り込みください。なお振込者名の前にS9とご明記下さい。確認次第、領収書兼参加証を送付致します。

申込先：〒565-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2千里ライフサイエンスセンタービル
8階（財）千里ライフサイエンス振興財団 セミナー係 TEL:06-6873-2001
FAX:06-6873-2002 E-mail: senrilsf@commercity.or.jp 担当：田中 晃

学術シンポジウム 「アルツハイマー病のバイオロジー」

開催日：平成11年11月20日（土）10:00から

会 場：都市センター（コスモスの間）東京都千代田区平河町2-4-1

TEL:03-3265-8211（地下鉄丸の内線/銀座線・赤坂見附駅D出口より徒歩8分）

主 催：文部省基盤研究（C）企画調査11898026

後 援：日本生化学会、日本薬理学会、日本神経科学会、日本神経化学会、日本痴呆学会

プログラム：

-代表者挨拶-

森 啓（大阪市大・医学部）

座長：石浦章一（東京大学大学院・総合文化研究科）

「本企画調査がめざすもの」

1. 「アルツハイマー病の生物学的基礎」

井原康夫（東京大学大学院・医学系研究科）

2. 「神経変性疾患の治療法開発への戦略：神経再生と細胞死の抑制」

岡野栄之（大阪大学大学院・医学系研究科）

お昼

座長：岩坪 威（東京大学大学院・薬学系研究科）

3. 「GSK-3 と Axin による beta-catenin の分解制御機構」

菊池 章（広島大学・医学部）

4. 「神経変性疾患と神経細胞死の分子メカニズム」

垣塚 彰（大阪バイオサイエンス）

コーヒータ임

座長：田平 武（国立精神神経センター神経・研究所）

5. 「プリオン病とアルツハイマー病の共通点」

北本哲之（東北大学大学院・医学系研究科）

6. 「脳βアミロイド蓄積機構の細胞生物学的アプローチ」

柳沢勝彦（国立長寿医療研究センター）

7. 「タウオパチーの分子背景」

長谷川成人（東北大学大学院・薬学系研究科）

総合討論

なお、シンポジウム終了後に懇親会が別室「オリオンの間」にて参加者各自の負担（3000円）で開催されます。

参加費：無料

お問い合わせ先：森 啓 大阪市立大学医学部 老年医学研究部門 脳・神経系分野
TEL:06-6645-3920 FAX:06-6645-3922

謝辞

第42回日本神経化学会・広島大会の開催に際しましては多くの団体、医療機関、企業から多大のご助成、ご協賛をいただきました。ここに団体名、医療機関名、企業名を掲げ、深謝の意を表します。

広島県、広島市、広島県医師会、広島市医師会

IGL学園福祉会、青山病院、あかね会、一ノ瀬病院、大樹会回生病院、光輝会光輝病院、木阪病院、更生会草津病院、全仁会倉敷平成病院、呉みどりヶ丘病院、光仁会梶川病院、貴和会佐伯中央病院、真慈会真愛病院、翠清会梶川病院、瀬野白川病院、陽正会寺岡記念病院、緑風会長尾病院、厚生堂長崎病院、身体障害者療護施設ニューライフ君田、微風会ビハーラ花の里病院、フェニックス アマノ病院、古川医院、朋和会、槇坪病院、八千代会八千代病院、明清会山田脳神経外科、吉本内科外科クリニック

株式会社アズウェル、エーザイ株式会社、科研製薬株式会社、塩野義製薬株式会社、シーメンス旭メディテック株式会社、住友製薬株式会社、スミスクライン・ビーチャム製薬株式会社、ゼネカ株式会社、第一製薬株式会社、大正製薬株式会社、武田薬品工業株式会社、田辺製薬株式会社、中外製薬株式会社、帝人株式会社、東芝メディカル株式会社、日本イーライリリー株式会社、日本ウェルカム株式会社、日本ケミファ株式会社、日本シェーリング株式会社、日本新薬株式会社、日本製薬株式会社、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、日本ロシュ株式会社、ノバルティス ファーマ株式会社、萬有製薬株式会社、ピーイーバイオシステムズジャパン株式会社、ファルマシア・アップジョン株式会社、藤沢薬品工業株式会社、藤本製薬株式会社、ヘキスト・マリオン・ルセル株式会社、山之内製薬株式会社

(平成11年7月21日現在)

なお、合同公開シンポジウムに対しては、国際アルツハイマー・デーの記念事業として厚生省から後援を賜るとともに、文部省からは平成11年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公開発表(B)」の助成を受けることができました。

第42回日本神経化学会会長
中村重信

編集後記

6月20日に一般演題、公募演題の募集を締め切ってからの約一ヶ月、広島大学医学部第三内科は広島大学で最もホットな教室であったのではないかと考えております。若い医局員や秘書の方々のアクティビティにはただただ頭が下がる思いです。この間広島市は思いがけない水害に見舞われ、さっそく各方面からお見舞いを頂戴したこともありました。広島での日本神経化学会の開催は第33回大会（会長：瀬川富朗先生）から数えて9年目になります。この間の脳神経科学の発展にはめざましいものがあり、その成果が本大会で発表、討論されることを切に期待しております。一方学会自体の方向性もまた変わろうとしています。今大会は第29回日本神経精神薬理学会との「余りタイトでない」合同を模索しました。将来へ向けてのご意見、ご批判を賜れば幸いです。

本プログラムの作製にあたりましてご助言、ご指導をいただきましたプログラム委員の諸先生方、編集委員会の熊倉鴻之助、高橋正身両先生、さらに多くの会員各位に厚く御礼申し上げます。そして何よりも会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

（事務局：三森康世）

メモ

Handwriting practice lines consisting of 25 horizontal dashed lines.

伝えるサープル 伝わるシグナル

脳梗塞後遺症に伴う情緒障害
(不安・焦燥、抑うつ気分)の
改善に、サープル。

特
性

1. 脳梗塞後遺症に伴う情緒障害
(不安・焦燥、抑うつ気分)を改善します。
2. 脳内シナプス伝達を促進します(モノアミン系)。
3. アセチルコリン作動性神経系に作用し、
神経伝達を調節します(ラット)。
4. 副作用発現率は9.2% (93/1,011例) でした。 (承認時資料より累計(1993年4月))

禁忌(次の患者には投与しないこと)
妊婦又は妊娠している可能性のある婦人
(動物実験で胎児毒性(波状肋骨、頸肋
骨痕)が報告されている)

効能又は効果

下記疾患に伴う情緒障害(不安・焦燥、抑うつ気分)
の改善
脳梗塞後遺症

用法及び用量

通常、成人にはアニラセタムとして1回200mgを
1日3回経口投与する。なお、年齢、症状により適
宜増減する。

〈用法及び用量に関連する使用上の注意〉

投与期間は、臨床効果及び副作用の程度を考
慮しながら慎重に決定するが、投与12週で効果
が認められない場合には投与を中止すること。

使用上の注意

1. 重要な基本的注意

本剤の使用にあたっては、脳梗塞後遺症である
ことを確認すること。確認にあたっては、原
則として頭部CT像等の画像診断が行われてい
ることが望ましい。

2. 副作用

承認時までの調査1,011例において、副作用
(臨床検査値異常を含む)は93例(9.2%)に認
められた。主な副作用は、GPT上昇15件
(1.5%)、Al-P上昇8件(0.8%)、GOT上昇7件
(0.7%)、発疹7件(0.7%)等であった。なお、
次のような副作用があらわれた場合には、症状
に応じて適切な処置を行うこと。

種 類	0.3～2%未満 又は頻度不明*	0.3%未満
精神神経系	興奮、頭痛、頭重 幻覚*、歩行障害* 頭がボーッとする* 睡眠*、しびれ感*	めまい、不安、不眠 精神不安定 異常行動
消化器	嘔気、食欲不振	嘔吐、下痢、腹痛
過敏症 ¹⁾	発疹	痒痒感
血 液	白血球減少、血小板減少	貧血
肝 臓	GOT上昇、GPT上昇 Al-P上昇、LDH上昇 ビリルビン上昇*	γ-GTP上昇
腎 臓	BUN上昇、尿酸障害 クレアチニン上昇*	—
そ の 他	倦怠感*	顔面潮紅、耳鳴

注1: 投与を中止し、適切な処置を行うこと

※その他の使用上の注意等は添付文書をご
覧ください。

脳血管障害性精神症状改善剤

指定医薬品・要指示医薬品

薬価基準収載

サープル[®]錠 100 200

SARPUL[®]

アニラセタム

(資料請求先)

富山化学工業株式会社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-5
1999年6月作成

Roche

<http://www.nipponroche.co.jp/>

脳血管障害性精神症状改善剤
指定医薬品、要指示医薬品

ドラガン[®]

錠100・錠200 〈アニラセタム製剤〉

Draganon[®] Roche 薬価基準収載

注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意等の

詳細については、製品添付文書をご参照ください。

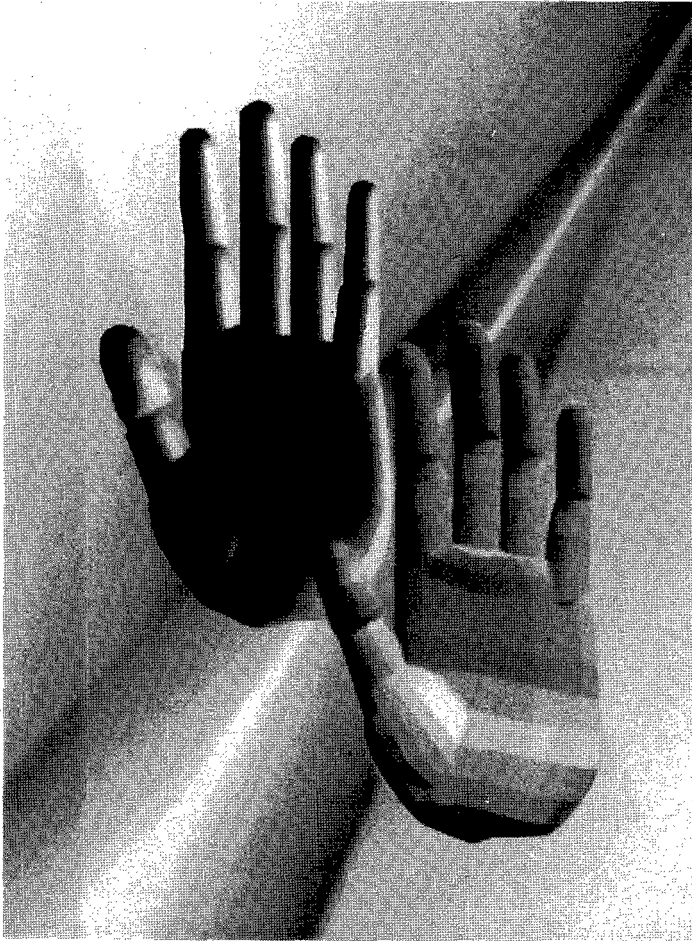
製造・販売元 〈資料請求先〉

日本ロシュ株式会社
〒105-8532 東京都港区芝2-6-1

1999年2月作成

神・経・修・復

メチコバルは、エーザイが独自に合成・開発した、メコバラミン（メチルB₁₂）製剤です。メチコバルは、核酸・蛋白合成、リン脂質合成を促進し、障害された神経を修復します（ラット、Monkey）。臨床的には、末梢性神経障害に伴うしびれ・痛み・麻痺を改善します。注射は急性期や難治性の神経疾患、入院患者さんに適しています。副作用発現率は経口で〇・九六％（一四六／一五、一八〇例）で、主なものは食欲不振、胃腸障害、悪心、下痢などです。（一九八五年十一月）又、注射では〇・四五％（一三／二八七二例）で、主なものは発疹などです。（一九九四年四月）重大な副作用として、注射でアナフィラキシー様反応を起こすことがあります。



効能・効果

末梢性神経障害、
ビタミンB₁₂欠乏による巨赤芽球性貧血（注射液500μgのみ）
（効能・効果に関連する使用上の注意）
本剤投与で効果が認められない場合、月余にわたって漫然と使用すべきでない。

用法・用量

錠500μg：通常、成人は1日3錠（メコバラミンとして1日1,500μg）を3回に分けて経口投与する。ただし、年齢及び症状により適宜増減する。
錠250μg：通常、成人は1日6錠（メコバラミンとして1日1,500μg）を3回に分けて経口投与する。ただし、年齢及び症状により適宜増減する。
細粒：通常、成人は1日3包（メコバラミンとして1日1,500μg）を3回に分けて経口投与する。ただし、年齢及び症状により適宜増減する。
注射液500μg（末梢性神経障害の場合）：通常、成人は1日1回1アンプル（メコバラミンとして500μg）を3回、筋肉内または静脈内に注射する。ただし、年齢及び症状により適宜増減する。
注射液500μg（巨赤芽球性貧血の場合）：通常、成人は1日1回1アンプル（メコバラミンとして500μg）を3回、筋肉内または静脈内に注射する。約2ヵ月投与した後、維持療法として1～3ヵ月に1回1アンプルを投与する。

使用上の注意

1. 内服剤

1. 副作用

総症例15,180例中、146例（0.96%）の副作用が報告されている。（副作用発現頻度調査終了時）

	0.1～5%未満	0.1%未満
消化器	食欲不振、悪心・嘔吐、下痢	
過敏症		発疹

*2. 適用上の注意

薬剤交付時（錠）

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。（PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜に刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている）

3. その他の注意

水銀及びその化合物を取り扱う職業従事者に長期にわたって大量に投与することは避けることが望ましい。

2. 注射剤

*1. 副作用

総症例2,872例中、13例（0.45%）の副作用が報告されている。（再審査終了時）

*2. (1) 重大な副作用（頻度不明）

アナフィラキシー様反応 血圧降下、呼吸困難等のアナフィラキシー様反応を起こすことがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	0.1%未満	頻度不明
過敏症 注)	発疹	
その他	頭痛、発熱感	発汗、筋肉内注射部位の疼痛・硬結

注) このような症状があらわれた場合は、投与を中止する。

2. 適用上の注意

(1) 投与時

光分解を受けやすいので、開封後直ちに使用するとともに、遮光に留意すること。

(2) 筋肉内注射時

筋肉内に投与する場合は、組織・神経などへの影響を避けるため、下記の点に注意すること。

- 1) 同一部位への反復注射は避けること。なお、未熟児、新生児、乳児、小児には特に注意すること。
- 2) 神経走行部位を避けるよう注意すること。
- 3) 注射針を刺入したとき、激痛を訴えたり、血液の逆流を見た場合には、直ちに針を抜き、部位をかえて注射すること。

(3) アンプルカット時

本品はワンポイントカットアンプルであるが、アンプルのカット部分をエタノール綿等で清拭してからカットすることが望ましい。

* 1997年5月改訂

* 1998年11月改訂

●ご使用に際しては添付文書をご参照ください。



末梢性神経障害治療剤

メチコバル®

錠500μg・錠250μg/細粒/注射液500μg

メコバラミン製剤



エーザイ

〒112-8088 東京都文京区小石川4-6-11
資料請求先：医薬企画部メチコバル係

H-K4 0011

〈薬価基準収載〉

住友製薬

パーキンソン病の

(Yahr重症度ステージIII)

すくみ足

たちくらみ

の改善に。

ノルエピネフリン作動性神経機能改善剤——— 薬価基準収載
指定医薬品・要指示医薬品（注）※（※）※の処方せん・指示により使用すること。

ドプス® カプセル100
カプセル200
細粒20
ドロキシドパ

■その他の使用上の注意等については添付文書をご覧ください。

製造発売元 （資料請求先）

住友製薬株式会社

〒541-8510 大阪市中央区道修町2丁目2番8号

住友製薬

本邦初

セロトニン作動性抗不安薬

創薬・指定医薬品・要指示医薬品（注意—医師等の処方せん・指示により使用すること）

セディール®錠⁵/₁₀
Sediel®（クエン酸タンドスピロン） 薬価基準収載

■効能・効果・用法・用量、使用上の注意等につぎましては添付文書をご覧ください。

製造発売元 （資料請求先）

住友製薬株式会社

〒541-8510 大阪市中央区道修町2丁目2番8号



Ion Channel Antibodies

Ca²⁺ Channels Antibodies

Anti- α_{1A} (P/Q-type)
Anti- α_{1B} (N-type)
Anti- α_{1C} (L-type)
Anti- α_{1D} (L-type)
Anti- α_{1E}
Anti-pan α_1
Anti-Ca β_3

Na⁺ Channels Antibodies

Anti-Brain Type I
Anti-Brain Type II
Anti-Brain Type III
Anti-Pan α (SP-19)

Cl⁻ Channels Antibodies

Anti-CLC-2 Anti-CLC-3

K⁺ Channels Antibodies

Anti-Kv1.1	Anti-Kv1.2
Anti-Kv1.3	Anti-Kv1.4
Anti-Kv1.5	Anti-Kv1.6
Anti-Kv2.1	Anti-Kv3.1b
Anti-Kv3.2	Anti-Kv3.4
Anti-Kv4.3	Anti-HERG
Anti-BK _{Ca}	Anti-Isk
Anti-TASK	Anti-ROMK1
Anti-GIRK1	Anti-GIRK2

P2X Purinoceptors Antibodies

Anti-P2X1	Anti-P2X2
Anti-P2X4	Anti-P2X7

PDZ Domain Antibodies

Anti-Chapsyn110
Anti-SAP 102

Ion Channel の Activator、Blocker も

多数取り揃えております。

ご注意: 試験研究用以外には使用しないで下さい。

ナカライテスク株式会社

本社 〒604-0855 京都市中京区二条通烏丸西入ル

フリーダイヤル 0120-489-552

E-mail: info-tech@nacalai.co.jp

胃を癒す

SB
SmithKline Beecham

Yes.
Tagamet

H₂受容体拮抗剤《シメチジン》
指定医薬品

(資料請求先)
スミスクリン・ビーチャム製薬株式会社

製造(錠)
藤沢薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町3-4-7

販売(錠・細粒)／製造(細粒)
スミスクリン・ビーチャム製薬株式会社
東京都千代田区三番町6番地

タガメット® 錠200・400mg
細粒20%
Tagamet®

薬価基準収載

98.5

糖尿病性末梢神経障害に伴う

アルドース還元酵素阻害剤

指定医薬品
要指示医薬品

自・他覚症状
の改善に!

キネダック錠

KINEDAK

エパルレストアット錠

薬価基準収載

■使用上の注意 1. 重要な基本的注意 (1) 糖尿病治療の基本である食事療法、運動療法、経口血糖降下剤、インスリン等の治療を行った上でなお、糖化ヘモグロビンが高値を示す患者に対して適用を考慮する。(2) 本剤の投与の対象となる患者の糖化ヘモグロビンは、HbA_{1c}値7.5%以上又はHbA_{1c}値8.5%以上を目安とする。(3) 不可逆的な器質的变化を伴う糖尿病性末梢神経障害の患者では効果が確立されていない。(4) 投与中は経過を十分に観察し、12週間投与して効果が認められない場合は他の適切な治療に切り換えること。2. 副作用 副作用集計の対象となった8,498例中119例(1.40%)に149件の副作用が認められた。主なものはGOT・GPTの上昇等の肝機能異常32例(0.38%)、腹痛16件(0.19%)、嘔気9件(0.11%)、倦怠感7件(0.08%)などである。(承認時迄の調査及び1998年1月迄の集計) (1) 重大な副作用 1) 血小板減少 まれに血小板減少があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。2) 肝機能障害 黄疸、著しいGOT・GPTの上昇等を伴う肝機能障害(0.04%)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような場合は投与を中止し適切な処置を行うこと。(2) その他の副作用

過敏症注)	0.1~0.5%未満	0.1%未満	頻度不明
肝 臓	GOT、GPT、 γ -GTPの上昇等	発疹、痒疹、紅斑、水泡等	
消化器	腹痛、嘔気	胆汁リン上昇	
		嘔吐、下痢、食欲不振、腹部膨満感、便秘	

■効能・効果 糖尿病性末梢神経障害に伴う自覚症状(しびれ感、疼痛)、振動覚異常、心拍変動異常の改善(糖化ヘモグロビンが高値を示す場合)

■用法・用量 通常、成人にはエパルレストアットとして1回50mgを1日3回毎食前に経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

腎 臓	BUN上昇、クレアチニン上昇	尿量減少
血 液	貧血	
そ の 他	倦怠感、めまい、頭痛、こわばり、脱力感、四肢疼痛、動悸、浮腫、ほてり	しびれ、脱毛、紫斑、OPK上昇

頻度不明は自発報告による 注)：発現した場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

3. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。(妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。) (2) 本剤投与中は授乳を避けさせること。(動物実験(ラット)で乳汁中へ移行することが報告されている。) 4. 小児等への投与 未熟児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。5. 臨床検査結果に及ぼす影響 本剤の投与により尿は黄褐色又は赤色を呈するため、ビリルビン及びケトン体の尿定性試験に影響することがある。6. 適用上の注意 薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

●その他詳細は添付文書をご参照ください。

製造発売元
資料請求先



小野薬品工業株式会社

〒541-8526 大阪市中央区道修町2丁目1番5号

990426

Balance & Combination



通常、L-dopa製剤と併用する ドーパミンアゴニスト

- D₁およびD₂ドーパミン受容体への高い親和性
- 早期の効果発現とその持続
- wearing-off現象、すくみ足なども改善
- 主な副作用は、消化器症状の悪心・嘔気 (17.8% (106件/595例)*)

* 第II相・第III相臨床試験についての累計。

禁忌

(次の患者には投与しないこと)

既往に麦角製剤に対する過敏症を有する患者

※効能・効果、用法・用量、使用上の注意等は
製品添付文書をご参照ください。



ドーパミンD₁、D₂作動性パーキンソン病治療剤

ペルマックス[®] 錠 50μg
250μg

Permax[®] 〈メシル酸ベルゴリド錠〉

薬価基準収載

Lilly

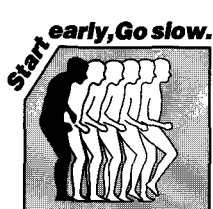
製造発売元 <資料請求先>

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086 神戸市中央区東上道7丁目1番5号

劇薬、指定医薬品、要指示医薬品(注意・医師等の処方せん・指示により使用すること)

NOVARTIS



持続性ドーパミン作動薬

薬価基準収載

パーロデル[®] 2.5mg

劇薬 | 指定医薬品 | 要指示医薬品 | 注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

Parlodel[®]

メシル酸プロモクリプテン錠

精神活動改善剤・パーキンソン症候群治療剤
抗A型インフルエンザウイルス剤

薬価基準収載

シンメトレル[®] 錠 50mg
錠 100mg
細粒

指定医薬品 | 要指示医薬品 | 注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

Symmetrel[®]

塩酸アマンタジン製剤

●各製品の効能・効果、用法・用量、使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

販売〔資料請求先〕

ノバルティス ファーマ株式会社
東京都港区西麻布4-17-30 〒106-8618

製造 日本チバガイギー株式会社
兵庫県宝塚市美幸町10番66号 〒665-8666

静注用人免疫グロブリン製剤

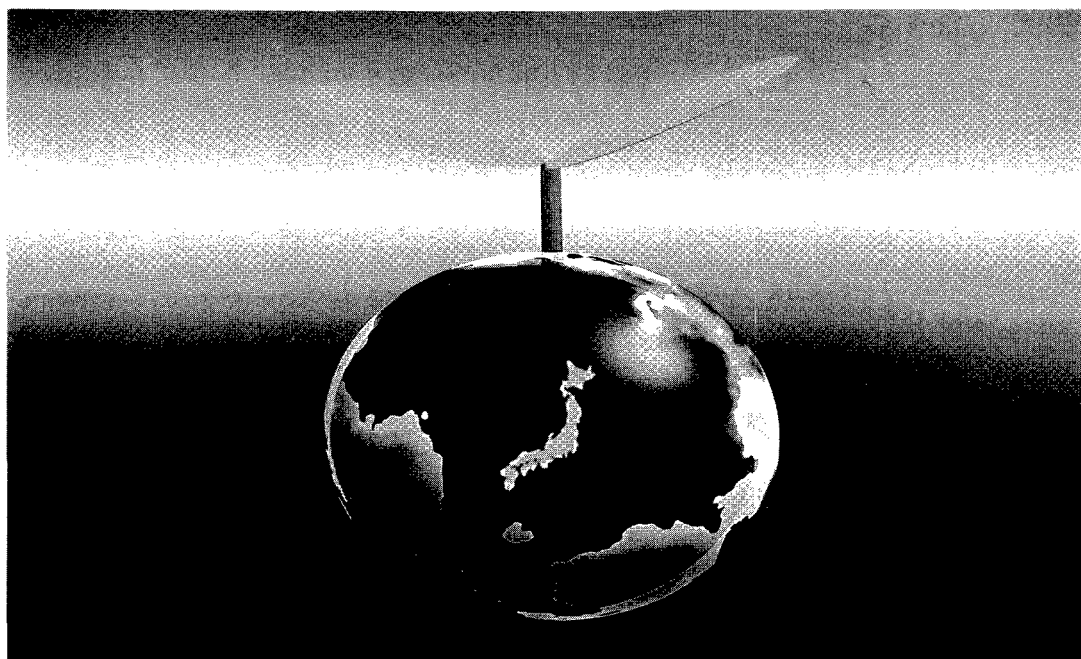
薬価基準収載

指定医薬品

献血グロベニン[®]-I-ニチャリ

〈乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン〉

[本剤は、貴重な血液を原料として製剤化されたものであるので、
その旨を十分留意し、適切な使用について配慮をお願いします。]



禁忌： 本剤の成分に対しショックの既往歴のある患者さんには投与しないでください。

原則禁忌： 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者さんには慎重に投与してください。

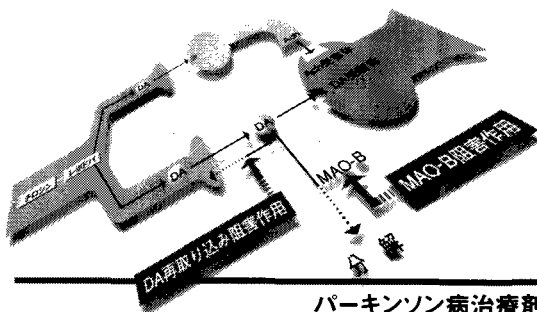


■ 効能・効果、用法・用量、使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造〔資料請求先〕
 **日本製薬株式会社**
〒101-0031 東京都千代田区東神田一丁目9番8号

販売
 **武田薬品工業株式会社**
〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号

1999年5月作成 (K)



特徴

1. 本邦初の選択的MAO-B阻害によるパーキンソン病治療剤です。
2. 脳内ドパミンの代謝を抑えることにより、ドパミン・モジュレーターとして、治療効果を延長します。
(1) ドパミン機能増強作用
(2) ドパミン機能持続作用
3. 副作用発現率は36.3% (488例中177例)でした。(承認時)

■効能・効果

次の疾患に対するレボドパ含有製剤との併用療法
パーキンソン病（過去のレボドパ含有製剤治療において、十分な効果が得られていないもの：Yahr重症度ステージⅠ～Ⅳ）

劇薬
覚せい剤原料
指定医薬品
要指示医薬品

パーキンソン病治療剤

薬価基準収載

エプピー錠 2.5
FP (塩酸セレギリン錠)

新発売

■警告

1. 本剤と三環系抗うつ剤（塩酸アミトリプチン等）との併用はしないこと。また、本剤の投与を中止してから三環系抗うつ剤の投与を開始するには少なくとも14日間の間隔を置くこと。（「相互作用」の項参照）
2. 本剤は用量の増加とともにMAO-Bの選択的阻害効果が低下し、非選択的MAO阻害による危険性があり、また更なる効果が認められないため、1日10mgを超える用量を投与しないこと。（「過量投与」の項参照）

■禁忌（次の患者には投与しないこと）

1. 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 塩酸ベチジンを投与中の患者（高度の興奮、精神錯乱等の発現が報告されている。）
3. 非選択的モノアミン酸化酵素阻害剤（塩酸サフラジン）を投与中の患者（高度の起立性低血圧の発現が報告されている。）
4. 精神分裂病又はその既往歴のある患者（精神症状の悪化が報告されている。）
5. 覚せい剤、コカイン等の中枢興奮薬の依存又はその既往歴のある患者
6. 三環系抗うつ剤（塩酸アミトリプチン等）を投与中あるいは中止後14日間の患者（「相互作用」の項参照）
7. 選択的セロニン再取り込み阻害剤（マレイン酸フルボキサミン）を投与中の患者（「相互作用」の項参照）

●その他の使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。また、使用上の注意の改訂に十分ご留意ください。

製造発売元



藤本製薬株式会社

提携

Sanofi-Chinoin

大阪府松原市西大塚1丁目3番40号

【資料請求先】 藤本製薬株式会社 医薬情報室 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目1番1号（バレスビル）

☎ 0120-545-427

B0

新発売

ドパミン作動薬

劇薬 指定医薬品 要指示医薬品*

カバサル錠
0.25mg 1.0mg

一般名：カベルゴリン

薬価基準収載



*注意一医師等の処方せん・指示により使用すること

■効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等の詳細については、製品添付文書をご参照ください。

資料請求先 **キッセイ薬品工業株式会社**

製品情報部 東京都中央区日本橋室町1丁目8番9号
TEL:03-3279-2304

ファルマシア・アップジョン株式会社

学術情報室 東京都新宿区西新宿3丁目20番2号
TEL:0120-417151

人名索引

(A)

Alcino Silva J. WS7-5
 Avraham Hava WS3-1
 阿部 一樹 WS1-6
 安倍 博 P2-42
 阿部 康二 WS2-9 WS2
 阿部 輝雄 P1-13
 足立 香代 P2-54
 安達 直樹 P2-50 P1-51
 足立 達美 P1-24
 足立 芳樹 WS9-6
 相原 雅子 V4-01
 会津 善紀 P1-78
 赤池 昭紀 S7-4
 赤沼 のぞみ P1-59
 秋口 一郎 S3-3
 新郷 明子 P2-38 P2-14
 秋光 知英 S8-PL
 秋田 裕美 P1-05
 秋山 一文 S2-1
 秋山 魁一 P1-27
 穂吉 秀隆 S8-3
 天野 賢示 V5-01
 安藤 正人 P2-68
 安藤 進 V4-04
 案浦 洋一 P2-46
 青山 峰芳 P2-37
 新井 平伊 P1-77 S2
 荒川 義弘 P2-39 WS9-3
 荒木 敏行 V5-09
 荒木 亘 V3-06
 有波 忠雄 P1-64 P1-65
 浅井 清文 P2-37 P1-23 WS8-4
 浅井 聰 WS2-5 WS8-6
 浅見 利雄 WS7-2
 浅野 徹 P1-36
 浅沼 幹人 P2-02 P1-55
 阿相 皓晃 P1-27 P1-29 P1-24
 P1-11

(B)

Banks W. A. WS8-7
 馬場 明道 V6-01
 馬場 広子 P1-40 P1-05 S3-PL
 板東 良雄 V4-06

(C)

Casamenti Fiorella P2-60
 許 波 P1-63
 蔡 榮浩 P2-24
 千葉 賢三 V5-02
 知久馬 敏幸 P2-09

(D)

Davies Alun M WS7-6
 Donati R. J. WS4-8
 田 慶宝 P1-09
 傳法 倫久 P2-66 V4-03
 土肥 謙二 WS8-7
 土肥 敏博 V1-08
 土井 拓 P2-71 P2-72

(E)

海老澤 尚 P2-42
 江頭 亨 P1-56

遠藤 啓吾 V4-01
 遠藤 玉夫 P1-54 P1-66
 遠藤 之洋 WS9-3
 遠藤 真澄 P2-74
 遠藤 仁 P1-08
 榎戸 靖 P2-50 P1-51
 衛藤 義勝 P2-56 P2-26 WS7-6

(F)

Fernando Lopez Redondo WS6-4
 P2-40
 藤川 直人 P2-35
 藤木 幸夫 WS3-6
 藤本 勝巳 V1-05
 藤本 貞毅 P1-69
 藤岡 大助 P2-32
 藤澤 仁 P2-10 P2-21
 藤沢 嘉勝 V3-09
 藤田 佳織 P1-23
 藤田 公和 P2-57 P2-68
 福田 宏之 V3-02
 福田 健夫 WS9-1
 福井 文子 V4-04
 福井 裕行 V1-05
 福岡 五龍 S8-3
 福本 拓治 P1-60
 福永 浩司 V1-10 V1-11 V3-03
 V3-04 WS1-4
 福所 英里子 V2-03 P2-64
 福内 靖男 P2-66 V4-03
 古川 昭榮 P2-31 P2-34 WS7-2
 V5-06
 二村 隆史 P2-27
 二木 啓 P2-66

(G)

Gabrieli John D. S10-7
 後藤 文夫 P1-49
 後藤 雄一 S8-2

(H)

Harrington Charles R P1-77
 Hoeijmakers Jan. H. J. P2-50 P1-51
 芳賀 達也 P1-08
 萩野 洋子 S2-5
 萩原 民雄 P2-13
 浜之上 誠 WS7-6
 韓 春錫 P1-11 P1-37
 原 とも子 P1-67 P1-35
 原田 暁 P2-67
 長谷川 明子 P1-40
 長谷川 浩史 V3-01 V3-03 V3-04
 長谷川 光広 WS6-7
 橋井 美奈子 P1-01
 橋本 敦史 P1-19 P1-20
 橋本 亮太 V2-02 V2-03 P2-64
 橋本 恒一 P2-04
 橋本 喜次郎 P1-61
 畠中 寛 P1-53 P2-50 P1-51
 P2-19 P1-52 WS7
 V5-07 V5-08 V5-09
 林 崇 WS7-5
 林 秀樹 P1-68 P1-74
 林 謙介 P1-49 S4-2
 林 美都子 V1-03 V1-06
 樋木 修 S1-4

秀 和泉 P2-08 V5-04 WS9-2
 東 洋一郎 P1-55
 東田 陽博 P1-01
 樋口 宗史 P1-63
 樋口 京一 WS5-3
 樋口 真人 V3-08
 水見 敏行 P2-62
 桧井 栄一 V1-04
 平林 敏行 P2-18
 平原 史樹 WS1-6
 平松 緑 V2-08
 平野 久 P2-09
 平野 均 V1-01
 平野 誠 P1-61
 平岡 秀一 S2-2
 平田 牧三 V1-01
 平田 洋子 P2-54
 廣瀬 源二郎 S3-2
 廣瀬 伸一 S8-3
 久永 真市 V6-03 P1-15
 久岡 一恵 WS4-7
 久恒 智博 WS1-3
 久山 哲廣 V1-05
 人見 淳一 P1-73 P2-16
 本多 敦子 P1-13
 本田 真知子 P2-52
 本田 静世 P2-40 WS6-4
 本田 岳夫 P1-39
 本藤 久雄 P1-61
 本郷 茂樹 P1-34 V6-08
 本間 研一 P2-42
 本間 さと P2-42
 本間 豊 P1-31 P1-32 WS6-2
 堀 均 P1-11
 堀 耕治 P2-49 P2-45
 堀 正二 S3-4 WS6-8
 堀 修 P1-06 V4-07
 堀江 秀典 WS6-7
 堀江 正男 WS6-7
 堀口 淳 P2-11 P2-15 P1-60
 堀越 嗣博 P1-42
 堀尾 修平 V1-05
 星 道生 P2-70
 星 直人 P1-01
 星川 裕 P1-17
 星野 潤 P1-43
 細谷 龍男 P2-26
 堀田 凱樹 S4-PL
 (I)
 Islam Ashraful V2-04
 Ivanova Anna S3-PL
 衣斐 督和 S7-4
 一宮 智美 P1-25
 一瀬 宏 WS2-8
 井田 博幸 P2-56
 井田 逸朗 V4-01
 井出 利恵 S1-1
 五十嵐 道弘 P1-10
 五十嵐 修一 S5-1 S8-1
 井原 康夫 WS5-4 WS3-3 WS4-6
 V3-05
 飯田 順三 P1-23
 飯田 佳代 V2-11
 飯沼 一宇 P2-73

池田 順子	P2-67	S6-5	
池田 稔衛	S5		
池田 研二	S4-5		
池田 正明	P2-42		
池田 正行	P2-62		
池上 浩司	P1-20	V2-05	
池中 一裕	P1-05	P1-40	P1-41
	V6-07	S3	S3-PL
壹岐 大祐	V5-01		
今川 浩之	P2-13		
今井 嘉紀	P1-16	WS4-3	
今泉 和則	P1-73	P1-47	P1-72
	P2-25	P2-16	
今泉 美佳	P2-05		
今村 一之	V2-02		
井門 ゆかり	WS3-5	追加発言	
井本 敬二	S20-4	S5-4	
稲垣 正俊	P2-11	P2-15	
稲垣 好昌	WS6-7		
稲熊 裕	V2-11	V5-05	
稲村 直子	P2-50		
稲永 由紀子	P1-42		
稲津 正人	P1-07		
稲生 英俊	WS2-4		
井上 順雄	WS1-6	P1-04	
井上 教子	WS9-2	P2-08	V5-04
井上 和秀	WS9-5	V1-07	WS6-4
	V5-04		
井上 聖啓	P2-26		
井上 幸江	P2-20		
井上 辰志	WS6-3		
井上 登美夫	V4-01		
井上 雄一朗	P1-23		
入谷 修司	S4-5		
石橋 智子	P1-05		
石黒 幸一	P1-15		
石黒 浩毅	P1-65	P1-64	
石黒 啓司	S5-3		
石原 健	P1-08		
石井 加代子	P1-37		
石川 紘一	WS2-5	WS8-6	
石川 哲也	WS3-2		
石川 保幸	V5-08		
石丸 裕久	P2-60		
石田 敦彦	P2-10	P2-21	
磯部 一郎	P1-70	P1-71	
磯辺 俊明	P1-44		
板倉 誠	P2-07	P2-22	WS6-9
板倉 徹	WS6	V2-10	
板倉 康史	P2-30		
伊丹 千晶	WS1-5		
伊東 秀記	V2-11		
伊藤 仁一	V6-06	V6-04	
伊藤 康一	P1-24		
伊藤 正利	S8-3		
伊藤 誠二	WS9-8		
伊藤 正敏	V3-08		
伊藤 善規	P2-63		
岩井 美和子	V5-05		
岩間 久行	V1-02		
岩本 郁子	V2-11		
岩本 真知子	V4-04		
岩崎 靖乃	S3-PL	P1-40	
岩瀬 環	P2-44		

岩田 洋美	S8-3		
(J)			
日域 広昭	P1-60		
(K)			
Kulkarni, A. B.	P2-17		
鎌木 真理子	P2-58		
門屋 利彦	WS6-7		
鹿川 哲史	S3-PL	V6-07	
加賀谷 有行	P2-11	P2-15	P1-60
影山 肇	V6-09		
景山 卓	WS8-3		
貝淵 弘三	V2-03		
関地 泰介	S2-5		
垣下 浩二	V2-10		
垣塚 彰	S5-PL		
鎌田 仁	P2-71	P2-72	
亀下 勇	P2-10	P2-21	
亀谷 富由樹	P1-76		
紙野 晃人	S1-2		
神島 和代	WS7-7		
金井 好克	WS8	WS8-2	P1-08
金沢 賢也	P1-31	P1-32	WS6-2
金澤 裕子	WS4-3	P1-16	
神田 隆	WS8-5		
金子 勲	WS5-5		
兼子 直	S8	S8-5	S8-2
	S8-3		
金子 葉子	P2-03		
菅野 雅元	WS2-1		
菅野 敏夫	P1-49		
嘉藤 洋陸	WS2-3		
笠原 二郎	V1-11		
笠井 陽子	P2-06		
柏木 雄次郎	V2-03		
片田 栄一	P2-36		
片桐 秀晃	P2-11		
片岡 喜由	P1-48	P1-22	
片岡 正和	P2-22		
片山 泰一	P1-72	P2-16	
加藤 一磨	WS2-7		
加藤 尚彦	WS1-6		
加藤 兼房	V5-05	V2-11	
加藤 みどり	P1-75		
加藤 聖	V6-02		
加藤 泰治	P2-37	P1-23	WS8-4
加藤 尚彦	P1-04		
加藤 武	P1-46	P2-09	
勝又 隆太	S4-1		
桂 勲	P1-08		
川端 昌弘	P1-38		
川端 輝江	V4-04		
川口 三郎	WS6-3		
川口 綾乃	WS6-6		
川原 正博	P1-75		
川原 健	P1-57		
川井 千景	WS3-2		
河合 洋子	P2-37	P1-23	
河合 良調	P1-06		
川上 秀史	P1-77	P1-33	P2-59
	P2-55	S7-5	S5-4
	WS3-5	追加発言	
川俣 貴一	WS7-4		
川又 敏男	V3-01	V3-03	V3-04

河本 竹正	V2-04	V6-09	
川村 勇樹	P1-74		
川野 仁	WS6-7		
河野 真子	S3-PL	P1-41	
川ノ口 潤	P2-05		
瓦井 俊孝	P2-55		
河瀬 斌	P2-70		
川島 麗	P2-49		
河田 啓介	P2-20		
川添 陽子	P2-26		
賀谷 直樹	P1-19		
城所 良明	WS1-2		
菊地 臣一	WS6-2		
木元 克輔	WS9-3	P2-39	
吉良 潤一	S6-3	S6	WS3-4
岸本 正巳	P2-05		
岸本 年史	P1-23		
北田 一博	S8-PL		
北川 一夫	S3-4	WS6-8	
北村 邦男	P1-28		
北村 健	P2-59	P1-33	
木谷 隆子	P2-21		
北山 滋雄	V1-08		
鬼頭 昭三	P2-14	P2-38	
木内 一壽	P2-54		
木山 博資	P2-24	WS6-1	V4-08
清澤 秀孔	P1-31	P1-32	P2-69
胡 建国	P1-78		
木幡 陽	P1-66	P1-54	
小林 健一郎	S8-3		
小林 和夫	P2-74		
小林 正克	P1-35		
小林 三和子	P2-33		
古賀 毅	P2-22		
河野 朋子	WS1-5		
郡山 達男	P2-67	S6-5	
高坂 新一	WS6-4	WS7-7	WS5-2
	WS4-3	V5-04	P1-16
	P2-40		
小出 玲爾	S5-1	WS2-7	
小池 亮子	WS3-5		
小池 達郎	P1-50	P1-18	P1-20
	P1-19	P1-21	WS7-1
	V2-05		
小糸 寿美	P1-26		
小泉 修一	V1-07		
小嶋 久子	P2-49	P2-47	V2-07
小島 正己	V5-07		
小久保 登	P2-37		
駒井 清暢	P2-58		
駒野 宏人	P1-74		
小松 真紀子	V2-08		
小宮 義璋	P1-10	P1-14	WS4
	V6-03		
小宮山 徳太郎	P1-64	P1-65	
近 一夫	V4-04		
近藤 文雄	P2-61		
近藤 郁子	P1-12		
小西 明雄	P1-53		
小堺 有史	V4-03		
古武 弥一郎	P2-52	S7-2	
小谷 政春	P1-30		
高坂 新一	P2-40		
古和 久典	WS9-6		

小和田 祐紀	WS6-7					松本 昌泰	S3	WS6-8	S3-4	森 徹自	P2-69	P1-31	P1-32
小山 洋道	WS6-7					松本 知也	V5-07				WS6-2		
児矢野 絵	P1-42	P2-23				松村 展敬	WS4-6			森 泰生	S5-4		
小塚 和子	P2-67					松尾 明典	S3-3			森原 剛史	P2-25		
久保 幸穂	P1-12					松尾 義久	P2-20			森川 将行	P2-37	P1-23	
久保 武一	WS5-5					松岡 一郎	P2-33			森本 潔	WS5-5		
久保原 禪	P1-49					松島 伸昭	S8-3			森本 高子	WS5-2		
工藤 喬	S10-6	WS4-4	P2-64			松山 善次郎	S5-4			森野 豊之	S7-5		
熊田 竜郎	P1-40					松崎 秀夫	V4-05	V4-08	V5-03	森岡 徳光	WS9-2	P2-08	
熊谷 善弘	WS5-5					道川 誠	P1-71	P1-68	P1-70	森島 真帆	V3-05	WS5-4	
熊谷 圭	WS9-2	P2-08					P1-74			森島 美絵子	P2-06		
熊倉 鴻之助	P2-05					道川 貴章	WS2-6			森田 克也	V1-08		
国本 学	P1-24					三神 正昭	P1-65	P1-64	S8-2	守屋 友加	P1-69		
久野 友子	V2-04						V4-02			森山 昭彦	P1-23		
郭 哲輝	V1-12					三木 直正	会長講演	V1-12	WS4-2	森山 芳則	V1-03	V1-06	
栗原 英見	P2-32					三木 哲郎	S1-3			諸橋 愛子	V6-09		
栗原 正	P2-40	P2-49	P2-47			御子柴 克彦	P1-43	P2-17	V5-05	本村 啓介	P1-61		
	P1-25						WS2-6			向井 秀幸	V3-04		
栗栖 薫	WS6-3	S8-PL				三國 雅彦	V4-01	S4		村口 佐知子	P2-54		
栗山 勝	WS7					三森 康世	S1			村井 真知子	P2-50	P1-51	
黒田 洋一郎	V3-09	P1-75				南 雅文	WS9-4			村上 富士夫	S4-1		
黒川 知則	S1-4					南 敏明	WS9-8			村松 直樹	WS6-7		
黒木 規臣	S4-5					湊川 洋介	WS3-2			村本 和世	P1-75		
黒木 俊秀	P1-57	P1-61				満留 昭久	S8-3			村中 英樹	S8-3		
黒見 坦	P1-49	WS1-2				三ツ汐 洋	P1-64	P1-65		村岡 修	WS4-2		
車谷 隆宏	P2-64					満田 憲昭	P1-06			村山 美由紀	WS4-5		
楠見 公義	WS9-6					満田 憲昭	V4-08			村山 宣人	P2-46		
楠 進	S6-4	S6				三浦 裕	WS8-4			村山 洋	WS4-5		
桑原 敬介	WS6-8					三浦 公志郎	P2-20			村山 俊彦	WS1-7	P2-51	
桑原 玲子	P2-06					三浦 真紀	WS7-1			室田 誠逸	P2-62		
桑野 良三	P1-39					三浦 正幸	S3-1	WS2-3	WS2-2	武藤 多津郎	WS7-3		
(L)						三浦 玲子	P1-03			(N)			
Liu, Chen	P1-66					三浦 貞則	V2-07			鍋島 俊隆	S10-2		
Louis Jean-Claude		S10-10				三浦 裕	P1-23			鍋島 陽一	S1-PL		
李 英培	V6-01					宮地 栄一	P2-57	P2-68		名田 聡美	V1-04		
李 争艶	P2-73					宮地 隆史	P1-33	P2-59		永井 克也	P1-26		
(M)						宮川 太平	P2-29			永井 忠聖	P2-28		
Miao Chuai	V4-09					三宅 進一	V4-05	V4-08	V5-03	長岡 孝則	WS4-1		
Mobarakeh Jalal Izadi	P2-73						P1-06			永沢 秀子	P1-11		
馬淵 卓真	WS6-8					宮本 英七	V1-11	V3-03	V3-01	永田 栄一郎	V4-03		
町出 充	WS7-7						V1-10	V3-04	WS1-4	永田 俊人	WS2-5	WS8-6	
前田 秀一郎	WS5-1	WS5					P2-29			永田 豊	P2-57	P2-68	
間島 竹彦	V4-01					宮本 政臣	V2-01			永津 俊治	WS2-8	P2-03	
丸山 博文	P1-77	P2-59				宮田 卓樹	WS6-6			長安 祐子	V6-04	V6-06	
丸山 敬	P1-76					宮武 史子	P1-78			内木 宏延	WS5-PL		
丸山 直紀	P1-12					宮武 正	WS3			中田 智絵	P1-40		
丸山 尚治	P1-02					宮崎 博文	P1-48			中田 規之	P1-34		
丸山 和佳子	V2-09	S7-3				宮崎 育子	P1-55	P2-02		中田 祐二	P1-35		
丸山 悠司	P2-60					三好 出	P2-11	P2-15		中館 和彦	V2-02		
正木 全	V2-01					三好 功峰	V3-01	V3-03	V3-04	中福 雅人	P1-42		
増尾 好則	V2-01					三好 耕	P2-16	P1-72		中川 八郎	P1-78		
益山 隆志	WS9-1					水野 恭伸	WS1-5			中川 美和子	V1-05		
間藤 尚美	WS5-6					水野 龍義	V5-03			中川 勉	P2-30		
松田 育美	P1-45					水野 哲也	P1-68			中川原 章	V2-04	V6-09	
松田 敏夫	V6-01					水野 美邦	S7			中原 辰雄	P1-61		
松田 義宏	P1-26					水澤 英洋	WS8-5			中平 英子	P1-40		
松田 芳人	V1-01					水島 秀勝	WS8-7			中井 真通	V3-01	V3-03	V3-04
松井 真	S6-2					茂木 真希雄	WS2-8			中井 陽子	P1-24		
松川 則之	P2-36	P2-44	P1-41			毛利 哲郎	V5-02			中島 暉	P2-71	P2-72	
松峯 宏人	S7-1					桃井 隆	WS2-2			仲嶋 一範	WS7-6	P1-43	
松宮 輝彦	P1-07	P1-62				百溪 英一	V2-07			中嶋 一行	P2-40		
松本 清	WS8-7					森 啓	S1	S1-5	V3-02	中島 光業	V3-02		
松本 国治	P1-36						P1-76			中村 精紀	WS8-7		
						森 啓至	P2-03			中村 和弘	P1-46		

中村 和生 V2-07 P2-49
 中村 和雄 P2-01
 中村 雅之 S8-2 V4-02 P1-65
 P1-64
 中村 重信 会長講演 S5-4 S10-1
 WS3-1 WS1 S7-5
 S6-5 WS3-5 追加発言
 WS2-6 P1-77 P1-78
 P1-33 P2-55 P2-59
 P2-67
 中村 静雄 P2-46
 中村 祥子 P1-50
 中村 俊 WS1-5
 中村 泰子 P2-40
 中村 洋一 P1-48 P1-22 V4-09
 中村 祐 WS4-4 S10-6 P2-64
 V2-02 V2-03
 中野 泰子 P1-54
 中野 有香 S10-6
 中尾 直之 WS6-9 V2-10
 中岡 龍貴 V5-01
 中島 昭 P2-03
 中島 健二 WS9-6
 仲田 義啓 WS9 WS9-2 V5-04
 P2-08 P2-15
 中津 可道 P2-50 P1-51
 中山 耕造 P1-09
 中山 孝 WS1-6
 中山 均 P2-19
 中山 幸代 P1-11
 中澤 淳 P2-20
 中澤 敬信 WS1-3
 難波 寿明 P2-28
 涛川 一彦 V4-08 WS6-1
 直井 信 V2-09 S7-3
 那波 宏之 P2-27 P2-28 P1-58
 WS7-5
 根津 竹哉 P1-03
 二階堂 琢也 P2-69 P1-31 P1-32
 WS6-2
 西田 朗 WS4-7 P1-60
 西嶋 千晶 P2-39
 西島 正博 P2-47
 西川 徹 S2 S2-PL S20-2
 S2-2 V1-02
 西木 禎一 P2-05
 西村 伊三男 WS2-2 P1-67
 西中 直也 V6-08
 西野 仁雄 P1-05 P2-44
 西尾 テカ P1-53 P1-52
 西岡 博文 V5-06
 西谷 しのぶ S1-4
 西山 啓次 P1-52
 新田 淳美 P2-31 P2-34 V5-06
 WS7-2
 野田 公一 WS3-5 追加発言
 野川 茂 V4-03 P2-66
 野口 浩 P2-30
 野間口 博子 P2-74
 野元 正弘 WS9-1
 野村 正彦 P2-45 P2-49 P1-29
 P2-42 P1-28
 野村 靖幸 WS1-7 P2-51
 野中 良一 S2-5

野々村 健 P2-30
 野崎 兼吉 S5-1
 野沢 りさ WS6-7
 額田 敏秀 P1-03
 沼川 忠広 V5-07
 (O)
 大庭 明生 S3-PL
 小幡 邦彦 S4
 越智 一秀 WS3-5 追加発言 S6-5
 P2-67
 越智 隆弘 P2-24
 尾形 直則 V4-09 P1-48
 小川 祐人 WS6-6
 小川 和人 P2-68 P2-57
 小川 紀雄 P2-02 P1-55 P2-61
 小川 智 V4-06 V4-07
 荻田 喜代一 V1-04
 小倉 明彦 P2-35 S20-7
 小倉 博雄 WS2-6
 大橋 隆 P1-34
 大橋 十也 WS7-6 P2-26
 大平 美紀 V6-09
 大木 武 P1-34
 大倉 多美子 P1-11
 大宮 誠 P2-34
 大森 啓充 WS2-6
 大西 浩史 P2-22
 大野 耕策 P2-56
 大野 知親 P2-46
 大沼 徹 S2-3
 大澤 郁朗 WS5-2
 大澤 圭子 WS6-4 WS4-3 P1-16
 大島 登志男 P2-17
 大下 智彦 WS3-5 追加発言
 太田 成男 S1-2
 太田 秀臣 V2-11
 太田 茂 S7 S7-2 P2-52
 P2-53
 大谷 義夫 V2-07
 大槻 俊輔 WS6-8
 大矢 博昭 P2-71 P2-72
 大屋敷 孝雄 P1-45
 小鹿 幸生 P2-36 P1-41 P2-44
 岡 美智子 P2-63
 岡田 元宏 S8-5
 岡田 亜希子 P2-15
 岡田 秀親 P2-44
 岡田 雅人 P1-26
 岡田 泰伸 S20-6
 岡戸 晴夫 V4-05
 岡本 泰昌 P2-11 P1-60 P2-15
 WS4-7
 岡村 信行 V3-08
 岡野 照 P1-09
 岡野 栄之 WS2-3 WS6-6 P1-42
 大川 克也 WS6-7
 奥田 隆志 P1-08
 大熊 康修 WS1-7
 奥村 秀雄 V4-09
 奥村 茂樹 WS4-2
 奥野 幸子 P2-21
 大倉 陸美 S20-3
 大森 信彦 P1-17
 小野 道子 P2-30

小野 功貴 V3-04
 小野田 学時 P1-39
 小野寺 理 S5-1 WS2-7 S8-1
 大沼 梯一 S8-2
 折笠 瑞穂 P1-18
 織内 昇 V4-01
 納 光弘 S6-PL
 小山内 たか P1-30
 大沢 ひろみ P1-02
 太田 明 P2-03
 大津 洋 P2-28
 小山 文隆 WS3-3 V3-05
 小山田 正人 WS4-1
 小山田 ゆみ子 WS4-1
 小柳 清光 P2-26
 小沢 寛樹 WS4-8
 (P)
 Pant. H. C. P2-17
 Pepeu Giancarlo P2-60
 Pleasure David S3-2
 (Q)
 范 企文 P1-71 P1-74
 (R)
 Rasenick, M. M. WS4-8
 Rossor Martin N. S10-5
 (S)
 Saffen David P2-18
 Schenk Dale B. S10-9
 Spitalnik, Steven L. P1-66
 St. George Hyslop Peter H. S10-3
 Subramani Suresh WS3-1
 定方 哲史 V1-12
 鷲 直樹 P1-03
 西須 英雄 P1-13
 斉藤 真子 WS7-5
 斉藤 克 P2-47
 斉藤 真希 P2-47
 斎藤 尚亮 V3-01 S20-3
 斉藤 哲一郎 V6-07
 斎藤 利和 WS4-8
 酒井 偉久子 WS6-7
 阪井 一雄 S20-3
 酒井 久美子 P2-43
 酒井 規雄 S20-3
 坂本 剛 P2-26 P2-56
 坂本 安 P1-28
 坂本 ゆかり P1-45
 桜川 宣男 P2-23 P1-42 V2-10
 櫻井 映子 P2-73
 櫻井 香織 P2-38
 桜井 洋子 P1-27 P1-24 P1-29
 三五 一恵 P2-48
 佐野 輝 P1-64 P1-65 S8-2
 S20-1 V4-02
 佐野 護 WS3-2
 笹 征史 S8 S8-PL
 笹原 武志 V2-07
 笹川 展幸 P2-05
 佐々木 文彦 WS4-2
 佐々木 英忠 V3-08
 佐々木 健 P1-77 V3-09
 佐々木 孝寛 P1-15
 佐々木 洋 WS4-3 P1-16

融 道男 S2-PL
 戸山 芳昭 WS6-6
 豊岡 和彦 P2-27 P1-58
 豊里 晃 P1-63
 土田 敦之 P2-30
 土田 英人 S2-2
 津田 誠 WS9-5
 津田 正明 V5-01
 津田 守弘 P1-14
 辻 彰 WS8-1
 辻 稔 P1-62
 辻 繁勝 P2-12
 辻 省次 S5 S8-1 WS3-5
 S5-1 WS2-7
 塚本 直大 P1-02
 塚本 康浩 WS4-2
 弦巻 立 P1-63
 鶴尾 吉宏 P2-12
 堤 哲之 P1-61
 鳥居 剛 P2-55
 坪井 誠二 V1-03
 (U)
 内田 敦子 P1-15 V6-03
 内田 彩子 P1-42
 内田 洋子 V3-07
 内村 英幸 P1-61
 内野 博之 P1-17
 植田 弘師 WS9-7
 上田 健治 P2-60
 上田 國寛 WS5-6
 植田 勇人 P2-72 P2-71
 上原 けい子 P2-56
 上原 孝 WS1-7
 植木 裕司 P1-61
 植村 慶一 WS6 P1-24 P1-37
 P2-70 P1-11
 上野 幸子 V6-06
 上野 伸哉 WS9-5
 上野 修一 P1-64 P1-65 S8-2
 V4-02
 植月 太一 P1-35 P1-67 WS2-2
 上山 健彦 S20-3
 鶴飼 渉 WS4-8
 鶴飼 洋司郎 P2-63
 梅森 久視 WS1-3
 上村 敬一 V2-06
 梅沢 倫子 P2-51
 海野 麻未 S2-2 V1-02
 浦上 克哉 P1-78
 宇佐美 美穂子 P1-76
 (V)
 van der Horst Gijsbertus T.J. P2-50
 P1-51
 Veeranna P2-17
 (W)
 Wojczyk, Boguslaw S. P1-66
 和田 千鶴 WS2-7
 和田 一丸 S8-3
 和田 圭司 S20-2
 和田 圭樹 S3-PL
 和田 義樹 P2-37
 若宮 昭子 P1-44
 若森 実 S5-4

脇 初枝 V4-04
 脇田 英明 S3-3
 和中 明生 P2-69 P1-31 P1-32
 WS6-2
 制田 仁 WS2-9
 渡部 和彦 P2-56 P2-26 P2-48
 渡辺 秀栄 P1-59
 渡邊 真知子 WS9-3
 渡辺 雅幸 S2-5
 渡邊 建彦 V3-08 P2-73
 渡辺 武 P2-73
 渡辺 義文 V1-01
 (Y)
 矢部 千尋 P2-04
 八木 敬子 V3-01
 八木 健 S4-4
 八木田 佳樹 WS6-8
 山田 浩司 V1-03
 山田 正夫 S5-2
 山田 雅司 P1-53 P1-52 V5-09
 山田 光則 S5-1
 山田 猛 WS3-4 WS3
 山田 康枝 P2-20
 山口 剛 WS7-5
 山口 淳 V4-05 V4-07 V5-03
 山口 高史 WS4-8
 山口 知子 WS7-4
 山川 和弘 S8-4
 山国 徹 P1-46 P1-03
 山森 早織 P2-22
 山本 雅 WS7-5 WS1-3
 山本 章嗣 V1-03 V1-06
 山本 秀子 P1-03 P1-46
 山本 秀幸 V1-10 V3-01 V3-03
 P2-29
 山本 愛美 P1-23
 賢 P2-09
 山本 直樹 WS8-4 S2-2 V1-02
 山本 孝之 P2-44
 山本 敏文 P1-03 P1-46
 山村 隆 S6-1
 山室 裕 P1-29
 山中 貢 P2-30
 山中 正二 P2-48
 山中 康光 P1-56
 山之内 博 S3-5
 山科 聡子 P2-13
 山下 拓史 WS3-1
 山下 敬介 WS2-6
 山下 俊英 P2-24
 山内 理充 P2-68
 山内 卓 V1-09
 山内 俊雄 P2-42
 山内 康照 P1-34
 山脇 正永 WS8-5
 山脇 成人 P2-11 P1-60 P2-15
 WS4 WS4-7
 山崎 博幸 V6-05
 山崎 眞津美 V5-02
 山崎 恒夫 WS4-6
 関 剣虹 P1-28
 柳原 武彦 S3-4 WS6-8
 柳沢 勝彦 P1-71 P1-70 P1-68
 P1-74 S10-8 WS5

谷内 一彦 V3-08 P2-73
 矢嶋 隆一 P2-09
 安田 肇生 WS2-6
 保田 稔 P1-77
 安田 雄 S8-2
 八代 聖基 V1-03
 矢嶋 貴仁 P2-70
 横屋 幸彦 P1-32 P1-31 P2-69
 WS6-2
 横山 秀克 P2-71 P2-72
 横山 茂 P1-01 S20-5
 横山 信治 V6-04 V6-06
 米田 和広 WS8-4
 米田 託成 P1-47 P2-25 P2-16
 米田 悦啓 P2-24
 米田 幸雄 V1-04
 米谷 美奈子 S8-3
 米澤 裕次 P1-57
 蔡 栄浩 V5-03
 吉田 弘美 P1-25
 吉田 聖美 P1-53
 吉田 敏 P2-43
 吉川 和明 P1-36 P1-67 P1-35
 WS2-2
 芳本 信子 P2-57
 吉村 和法 P1-29
 吉村 好之 V1-09
 吉野 宏 P2-32
 吉野 雅文 P2-50 P1-51
 吉岡 亮 S3-2
 余 旺節 P2-42
 湯浅 浩之 P2-36 P1-41
 湯浅 勝敏 V3-06
 湯浅 茂樹 S4-4
 由井 大錦 P1-47
 湯川 和典 P2-12
 湯元 昇 P2-10
 湯山 耕平 P1-46
 (Z)
 善利 史子 S8-3
 前正 秀宣 P1-60 WS4-7
 張 勤増 P2-43
 趙 恒 WS8-6 WS2-5
 周 震宇 V6-02

神経化学 38巻 第2号

平成11年8月5日発行

編集兼発行者 日本神経化学会

代 表 者 三木 直正

発 行 所 日本神経化学会

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9

財団法人 日本学会事務センター内

印 刷 所 (株)タカトープ rintメディア